

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部の設置								
フリガナ設置者	コリウツクイノクシノゲン フライボリツクイノク 公立大学法人 福井県立大学								
フリガナ大学の名称	フレイボリツクイノク 福井県立大学								
大学本部の位置	福井県吉田郡永平寺町松岡兼定島4-1-1								
大学の目的	<p>本学は、教育基本法および学校教育法にのっとり、時代の進展に即応して学術文化の高度化を推進し、および自主的な真理探求の精神と広い視野を有し、かつ、豊かな創造力と高度の知識・技術に基づく実践力に富む人材を養成するとともに、学術情報を地域社会へ開放することにより、福井県はもとより我が国の産業と文化の発展に寄与することを目的とし、もって人類の永続的福祉の向上に貢献することを使命とする。</p>								
新設学部等の目的	<p>福井県は、30年以上にわたり恐竜化石発掘・研究を推進し、恐竜時代の環境や生態の解明を行ってきた。本学部は、福井県で蓄積された恐竜研究の成果をさらに発展させ、恐竜を含む古生物学を中心に、地質学・古環境学など恐竜研究の背景となる分野の教育・研究活動も加え、現代社会が直面する環境変化などの自然科学の諸問題に対応できるような、幅広い教養と専門的な知識・技術を持ち、多様な局面において協働的および自主的に課題を探究・解決できる人材を育成する。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	恐竜学部	年	人	年次人	人			年 月 第 年次	
	恐竜・地質学科	4	30	—	120	学士（理学）	理学関係	令和7年4月 第1年次	福井県吉田郡永平寺町松岡兼定島4-1-1 福井県勝山市村岡町五本寺17-15
計	4	30	—	120					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<p>生物資源学部 生物資源学科【定員増】（5）（令和6年6月届出予定） 創造農学科【定員増】（5）（令和6年6月届出予定） （3年次編入学定員）（△5）</p>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	恐竜学部 恐竜・地質学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位			
		129科目	21科目	19科目	169科目				
学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）		
	教授	准教授	講師	助教	計				
新設	恐竜学部 恐竜・地質学科	12 (9)	5 (3)	— (—)	3 (2)	20 (14)	— (—)	72 (43)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	11 (8)	5 (3)	— (—)	3 (2)	19 (13)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
	小計（a～b）	11 (8)	5 (3)	— (—)	3 (2)	19 (13)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	1 (1)	— (—)	— (—)	— (—)	1 (1)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
	計（a～d）	12 (9)	5 (3)	— (—)	3 (2)	20 (14)			
分	計	12 (9)	5 (3)	— (—)	3 (2)	20 (14)	— (—)	— (—)	

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人

既	経済学部 経済学科	9 (9)	6 (6)	— (—)	1 (1)	16 (16)	— (—)	66 (68)	大学設置基準別表 第一に定める基 幹教員数の四分の 三の数 8人	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (9)	6 (6)	— (—)	1 (1)	16 (16)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)				
	小計(a～b)	9 (9)	6 (6)	— (—)	1 (1)	16 (16)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a又はbに該当する者を除く)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)				
	計(a～d)	9 (9)	6 (6)	— (—)	1 (1)	16 (16)				
	経済学部 経営学科	9 (9)	6 (6)	— (—)	2 (2)	17 (17)	— (—)	67 (69)	大学設置基準別表 第一に定める基 幹教員数の四分の 三の数 8人	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (9)	6 (6)	— (—)	2 (2)	17 (17)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)				
	小計(a～b)	9 (9)	6 (6)	— (—)	2 (2)	17 (17)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a又はbに該当する者を除く)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)				
	計(a～d)	9 (9)	6 (6)	— (—)	2 (2)	17 (17)				
	設	生物資源学部 生物資源学科	11 (11)	9 (9)	2 (2)	2 (2)	24 (24)	— (—)	61 (61)	大学設置基準別表 第一に定める基 幹教員数の四分の 三の数 6人
		a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	11 (11)	9 (9)	2 (2)	2 (2)	24 (24)			
		b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
		小計(a～b)	11 (11)	9 (9)	2 (2)	2 (2)	24 (24)			
		c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a又はbに該当する者を除く)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
		d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
計(a～d)		11 (11)	9 (9)	2 (2)	2 (2)	24 (24)				
生物資源学部 創造農学科		5 (5)	2 (2)	— (—)	— (—)	7 (7)	— (—)	75 (75)	大学設置基準別表 第一に定める基 幹教員数の四分の 三の数 6人	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		5 (5)	2 (2)	— (—)	— (—)	7 (7)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)				
小計(a～b)		5 (5)	2 (2)	— (—)	— (—)	7 (7)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a又はbに該当する者を除く)		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a、b又はcに該当する者を除く)		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)				
計(a～d)		5 (5)	2 (2)	— (—)	— (—)	7 (7)				
分										

既	海洋生物資源学部 海洋生物資源学科	9 (9)	9 (9)	- (-)	1 (1)	19 (19)	- (-)	78 (80)	大学設置基準別表 第一イに定める基 幹教員数の四分の 三の数 6人				
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (9)	9 (9)	- (-)	1 (1)	19 (19)	/	/					
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)							
	小計(a~b)	9 (9)	9 (9)	- (-)	1 (1)	19 (19)							
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a又はbに該当する者を除く)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)							
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事 する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)							
	計(a~d)	9 (9)	9 (9)	- (-)	1 (1)	19 (19)							
	海洋生物資源学部 先端増養殖学科	7 (7)	5 (5)	- (-)	- (-)	12 (12)				- (-)	67 (69)	大学設置基準別表 第一イに定める基 幹教員数の四分の 三の数 6人	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	5 (5)	- (-)	- (-)	12 (12)				/	/		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)							
	小計(a~b)	7 (7)	5 (5)	- (-)	- (-)	12 (12)							
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a又はbに該当する者を除く)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)							
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事 する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)							
	計(a~d)	7 (7)	5 (5)	- (-)	- (-)	12 (12)							
	看護福祉学部 看護学科	12 (12)	7 (7)	1 (1)	9 (9)	29 (29)							- (-)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	12 (12)	7 (7)	1 (1)	9 (9)	29 (29)	/			/				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)								
小計(a~b)	12 (12)	7 (7)	1 (1)	9 (9)	29 (29)								
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a又はbに該当する者を除く)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)								
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事 する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)								
計(a~d)	12 (12)	7 (7)	1 (1)	9 (9)	29 (29)								
看護福祉学部 社会福祉学科	10 (10)	4 (4)	- (-)	4 (4)	18 (18)		- (-)	59 (61)					大学設置基準別表 第一イに定める基 幹教員数の四分の 三の数 9人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (9)	4 (4)	- (-)	4 (4)	17 (17)		/	/					
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)								
小計(a~b)	9 (9)	4 (4)	- (-)	4 (4)	17 (17)								
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a又はbに該当する者を除く)	1 (1)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (1)								
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事 する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)								
計(a~d)	10 (10)	4 (4)	- (-)	4 (4)	18 (18)								
計	72 (72)	48 (48)	3 (3)	19 (19)	142 (142)					- (-)	- (-)		
合 計	84 (81)	53 (51)	3 (3)	22 (21)	162 (156)					- (-)	- (-)		
設 分													

職 種		専 属		そ の 他		計			
事 務 職 員	42 (42)	人		57 (53)	人		99 (95)		
技 術 職 員	1 (2)			1 (1)			2 (3)		
図 書 館 職 員	3 (2)			4 (4)			7 (6)		
そ の 他 の 職 員	0 (0)			5 (4)			5 (4)		
指 導 補 助 者	0 (0)			0 (0)			0 (0)		
計	46 (46)			67 (62)			113 (108)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地	91,040.22㎡	0㎡	0㎡		91,040.22㎡			
	そ の 他	389,919.45㎡	0㎡	0㎡		389,919.45㎡			
	合 計	480,959.67㎡	0㎡	0㎡		480,959.67㎡			
校 舎	専 用	51,565.63㎡ (47,381.91㎡)	0㎡	0㎡ (0㎡)		51,565.63㎡ (47,381.91㎡)			
	共 用								
教 室 ・ 教 員 研 究 室		教 室	179室	教 員 研 究 室		20室			
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		機械・器具 点	標本 点		
		冊	電子図書 〔うち外国書〕	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕				
	恐竜学部 恐竜・地質学科	417,796 [75,212] (416,546 [74,837])	132 [88] (0 [0])	6,094 [4,830] (5,834 [4,590])	4,707 [4,706] (4,467 [4,466])	10 (10)	— (—)		
	計	417,796 [75,212] (416,546 [74,837])	132 [88] (0 [0])	6,094 [4,830] (5,834 [4,590])	4,707 [4,706] (4,467 [4,466])	10 (10)	— (—)		
スポーツ施設等		スポーツ施設		講堂	厚生補導施設				
		14,300㎡		918㎡	7,059.47㎡				
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当り研究費等	1,023千円	1,023千円	1,023千円	1,023千円	—	—	
		共同研究費等	938千円	1,340千円	1,340千円	1,340千円	—	—	
		図書購入費	10,698千円	1,123千円	2,245千円	3,367千円	4,490千円	—	—
	設備購入費	15,987千円	818,591千円	34,089千円	34,089千円	34,089千円	—	—	
	学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		県内 724千円 県外 818千円	536千円	536千円	536千円	—	—		
学生納付金以外の維持方法の概要		福井県からの運営費交付金、雑収入							
大 学 等 の 名 称		福井県立大学							
既 設 大 学 等 の 状 況	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率	開設 年度	所 在 地
	経済学部	年	人	3年次 人	人		倍		
	経済学科	4	100	—	400	学士(経済学)	1.12	平成4年度	福井県吉田郡永平寺町松岡兼定島4-1-1
	経営学科	4	100	—	400	学士(経営学)	1.13	平成4年度	"
	生物資源学部						1.07		
	生物資源学科	4	45	—	180	学士(生物資源学)	1.08	平成4年度	"
	創造農学科	4	25	5	110	学士(生物資源学)	1.05	令和2年度	福井県あわら市二面88-1
	海洋生物資源学部						1.04		
	海洋生物資源学科	4	50	—	200	学士(海洋生物資源学)	1.05	平成21年度	福井県小浜市学園町1-1
	先端増養殖科学科	4	30	—	60	学士(海洋生物資源学)	1.01	令和4年度	福井県小浜市聖海49-8-2
看護福祉学部						1.10			
看護学科	4	50	—	200	学士(看護学)	1.12	平成11年度	福井県吉田郡永平寺町松岡兼定島4-1-1	
社会福祉学科	4	30	—	120	学士(社会福祉学)	1.07	平成11年度	"	
附属施設の概要		該当なし							

教育課程等の概要

（恐竜学部恐竜・地質学科）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
I 英語	英語A	1前		2			○							4	
	英語B	1前		2			○							5	
	英語C	1後		2			○							4	
	英語D	1後		2			○							5	
	小計（4科目）	—	—	8			—							5	
II 情報	ICTリテラシー	1前・後		2			○							3	
	データサイエンス基礎	1前・後		2			○							3	
	情報科学	1後		2			○							2	
	小計（3科目）	—	—	4	2		—							4	
I キャリア	キャリア形成論	1前		2			○							1	
	小計（1科目）	—	—	2			—							1	
II 英語	英語発展IA	1前		2			○							5	
	英語発展IB	1後		2			○							5	
	英語発展IIA	1前		2			○							5	
	英語発展IIB	1後		2			○							5	
	英語発展IIIA	1前		2			○							5	
	英語発展IIIB	1後		2			○							5	
	英語発展IVA	1前		2			○							5	
	英語発展IVB	1後		2			○							5	
	英語発展VA	1前		2			○							5	
	英語発展VB	1後		2			○							5	
	英語発展VIA	1前		2			○							5	
	英語発展VIB	1後		2			○							5	
小計（12科目）	—	—	24			—							5		
III 情報	データサイエンス応用	1後		2			○							1	
	プログラミング基礎	1前		2			○							1	
	プログラミング応用	1後		2			○							1	
	メディア情報リテラシー	1後		2			○							1	
	情報処理演習（AI）	1後		2			○							1	
	情報処理演習（CG）	1前		2			○							1	
	情報処理演習（Web開発）	1前		2			○							1	
	情報活用プロジェクト演習	1前		2			○							1	
	情報技術者（国家試験Ⅰ）	1前		2			○							1	
	情報技術者（国家試験Ⅱ）	1後		2			○							1	
	情報技術者（民間資格）	1後		2			○							1	
小計（11科目）	—	—	22			—							3		
IV 人文科学	哲学	1前・後		2			○							1	
	倫理学	1前・後		2			○							1	
	西洋思想	1前・後		2			○							1	
	東洋思想	1前・後		2			○							1	
	東洋史	1前・後		2			○							1	
	東洋の世界	1前・後		2			○							1	
	宗教学	1前		2			○							1	
	西洋史	1前・後		2			○							1	
	神話学	1前・後		2			○							1	
	歴史学	1前・後		2			○							1	
	言語学	1後		2			○							1	
	心理学	1前・後		2			○							1	
	臨床心理学概論	1後		2			○							1	
	社会学	1前・後		2			○							1	
	ジェンダー論	1前・後		2			○							1	
	現代家族論	1前・後		2			○							1	
	地理学	1後		2			○							1	
	地誌学	1前		2			○							1	
	言語文化（中国）A	1前		2			○							1	
	言語文化（中国）B	1後		2			○							1	
言語文化（韓国朝鮮）A	1前		2			○							1		
言語文化（韓国朝鮮）B	1後		2			○							1		
東アジアの文化と社会	1後		2			○							1		

一般教育科目

教育課程等の概要

（恐竜学部恐竜・地質学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹（助手を除く）教員
	小計（23科目）	—	—		46			—							12	
V 社会科学	政治学	1後			2			○							1	隔年
	経済学	1前			2			○							1	
	経営学	1前			2			○							1	
	法学	1前・後			2			○							1	
	日本国憲法	1前・後			2			○							1	
	国際社会と法	1前・後			2			○							1	
	現代人権論	1後			2			○							1	
	小計（7科目）	—	—		14			—							4	
VI 健康科学	体育実技Ⅰ	1前・後			1										1	標準外
	体育実技Ⅱ	1前・後			1										1	
	体育実技Ⅲ	1前			1										1	
	スポーツ科学	1前			2			○							1	
	運動処方論	1後			2			○							1	
小計（5科目）	—	—		7			—							1		
VII 自然科学	解析学	1後			2			○							1	オムニバス オムニバス
	代数学	1前			2			○							1	
	統計学基礎	1後			2			○							1	
	数学基礎	1前・後			2			○							1	
	物理学Ⅰ	1前			2			○							1	
	物理学Ⅱ	1後			2			○							1	
	脊椎動物の進化	1前			2			○			1	1				
	地球史入門	1前			2			○			1	1				
	地球環境学概論	1後			2			○			2					
	バイオサイエンス基礎	1後			2			○							1	
小計（10科目）	—	—		20			—			3	1			3		
VIII 地域	福井を学ぶ	1前			2			○							1	オムニバス
	海と暮らし	1後			2			○							1	
	恐竜学	1前			2			○			1	1				
	暮らしを支える生物資源	1前			2			○							1	
	水産増養殖学概論	1前			2			○							1	
小計（5科目）	—	—		10			—			1	1			4		
IX 第2外国語	中国語A	1前			4			○							1	
	中国語B	1後			4			○							1	
	中国語C	1前			2			○							1	
	中国語D	1後			2			○							1	
	韓国朝鮮語A	1前			4			○							1	
	韓国朝鮮語B	1後			4			○							1	
	小計（6科目）	—	—		20			—							2	
X 導入教育	導入ゼミナール	1前			2			○							6	
	教養ゼミナール	1後			2			○							6	
	小計（2科目）	—	—		4			—							6	
教職課程の設置により開設する科目	教育原理	1・2・3後			2			○							1	標準外 標準外 オムニバス、標準外（一部） 標準外 共同 ※演習 オムニバス・共同（一部）、※演習 オムニバス・共同（一部）、※演習
	教育史	1・2・3・4後			2			○							1	
	教師論	1・2・3前			2			○							1	
	教育制度論	1・2・3・4前			2			○							1	
	教育社会学	1・2・3・4前			2			○							1	
	教育心理学	1・2・3前			2			○							1	
	発達心理学	1・2・3・4後			2			○							1	
	特別支援教育	1・2・3・4後			2			○							1	
	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法	1・2・3・4前			2			○							1	
	教育方法論（情報通信技術の活用含む）	1・2・3・4前			2			○							1	
	生徒・進路指導論	1・2・3・4後			2			○							3	
	教育相談	1・2・3・4後			2			○							1	
	教育実習	4前			3										1	
	教職実践演習	4後			2				○						2	
	道徳教育の理論と実践	1・2・3後			2			○							1	
	理科教育法Ⅰ	1・2・3前			2			○							2	
	理科教育法Ⅱ	1・2・3・4後			2			○							2	
	学校インターンシップA	1前			1										1	
	学校インターンシップB	1後			1										1	
	化学Ⅰ	1前			2			○							1	

教育課程等の概要

(恐竜学部恐竜・地質学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	生物学 I	1前				2	○							1	
	小計 (21科目)	—	—			41	—							14	
専門基礎科目	地球科学フィールド実習 I	1前	○	2				○	2	2					共同、標準外、※講義
	生物学序論	1前	○	2				○	2						オムニバス
	地学概論	1前	○	2				○	1	1					オムニバス
	古生物学概論	1後	○	2				○	2						オムニバス・共同 (一部)
	地層学	1後	○	2				○	2						オムニバス
	海洋生物学	1後	○	2				○	1						
	植物生態学	2前	○	2				○	1						
	地球年代学	2後	○	2				○	2						オムニバス
	科学英語	2前	○	2				○	2	1					オムニバス
	進化生物学	2前	○	2				○	2	1					オムニバス
	地球化学序論	2前	○	2				○	3	1		1			オムニバス
	古生物学 I (脊椎動物)	2前	○	2				○	1	2				3	オムニバス
	日本列島形成史	2前	○	2				○	2						オムニバス
	地質調査法実習 I	2前	○	2					○	2	1				共同、標準外 (一部)、※講義
	地質図学演習	2前	○	2					○	2	1				オムニバス
	地球科学フィールド実習 II	2前	○	2					○	2	1				共同、標準外
	古生物学実習 I	2前	○	2					○	1	2		1		オムニバス・共同、標準外
	地球科学基礎実験	2前	○	1					○	2	1				オムニバス
	古生物学実験	2後	○	2					○	2					オムニバス・共同 (一部)
	デジタル古生物学概論	2後	○	2				○	2	1					オムニバス・共同 (一部)
	デジタル古生物学研究法実習	2後	○	2					○	2	1				オムニバス・共同 (一部)
	地球環境変動学	2後	○	2				○	1						
	地球化学	2後	○	2				○		1		1		1	オムニバス
	海洋底地球科学	2後	○	2				○	1						
	地球科学フィールド研究	3前	○	4					○	10					
	卒業演習 I	4前	○	2					○	12	5				
	卒業演習 II	4後	○	2					○	12	5				
	卒業研究	4通	○	8					○	12	5				
	小計 (28科目)	—	—	63				—	12	5		3		4	
専門教育科目	古生物地理学	3前				2		○	2						オムニバス
	古生物データサイエンス学	3前				2		○	2			1			オムニバス
	古生物多様性学	3前				2		○	1						
	古生物学実習 II	3前				2			2						オムニバス・共同 (一部)
	古生物学 II (微古生物)	3後				2		○	2			1			オムニバス
	古生物学課題演習	3後				2		○	6	3		2			
	小計 (6科目)	—	—			12		—	7	3		2			
専門応用科目	地質調査法実習 II	3前				2			1	2		1			オムニバス・共同、標準外 (一部)、※講義
	地球化学実験	3前				2			1	1		1			オムニバス・共同
	海洋地球科学実習	3前				2			3			1			オムニバス・共同 (一部)、標準外
	災害・防災学 I	3後				2		○						2	オムニバス・共同 (一部)
	災害・防災学 II	4前				2		○						1	
	地質学課題演習	3後				2		○	6	2		1			
	小計 (6科目)	—	—			12		—	6	3		2		3	
両コース選択必修科目	岩石・鉱物学	2前				2		○						1	標準外
	恐竜発掘実習	3後				2			1	1					共同、標準外
	地球物理学	2後				2		○						1	標準外
	恐竜学特論	2後				2		○	1	1				3	オムニバス、標準外
	ジオパーク学	2前				2		○						2	オムニバス、標準外
	コンピュータグラフィック概論	3前				2		○	1	2		1			オムニバス・共同 (一部)、標準外、※演習
	古植物学	3後				2		○	1	1				2	オムニバス
	古生物学 III (無脊椎動物)	3後				2		○	2			1		3	オムニバス、標準外
	応用地質学	3後				2		○		1				2	オムニバス、標準外
	GIS・リモートセンシング学	3後				2		○						1	※演習
	小計 (10科目)	—	—			20		—	5	5		2		15	
学芸員課程	博物館概論	2前				2		○						2	オムニバス
	博物館経営論	2前				2		○						3	オムニバス
	博物館教育論	2前				2		○						1	標準外
	博物館展示論	2後				2		○	1	1				1	オムニバス・共同 (一部)
	博物館情報・メディア論	2後				2		○		1				1	オムニバス
	博物館資料論	3前				2		○		1				1	オムニバス

教育課程等の概要																
(恐竜学部恐竜・地質学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹（助手以外の教員）
	博物館資料保存論	3前			2		○				1				1	オムニバス 標準外 オムニバス・共同（一部）、標準外
	生涯学習概論	3後			2		○								1	
	博物館実習	4後			3			○		2	2					
	小計（9科目）	—	—		19		—			2	3				9	
合計（169科目）		—	—	75	234	41	—			12	5		3		72	
学位又は称号		学士（理学）			学位又は学科の分野			理学関係								
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等								
<p>【卒業要件・履修方法】以下に掲げる基準を満たし、合計124単位以上修得すること。</p> <p><一般教育科目>以下の基準を満たした上で、合計28単位以上修得すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必修科目：12単位修得すること。 ・選択必修科目：Ⅳ群・Ⅴ群から10単位（主に文系科目）、Ⅶ群から6単位以上（主に理系科目）修得すること。 <p><専門教育科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門基礎科目：63単位修得すること。 ・専門応用科目： <ul style="list-style-type: none"> ▶ 恐竜・古生物コースの場合、恐竜・古生物コース必修科目12単位および両コース選択必修科目12単位を含めた合計24単位以上修得すること。 ▶ 地質・古環境コースの場合、地質・古環境コース必修科目12単位および両コース選択必修科目12単位を含めた合計24単位以上修得すること。 <p><一般教育科目、専門教育科目を問わず></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 恐竜・古生物コースの場合、9単位以上修得すること。 ▶ 地質・古環境コースの場合、9単位以上修得すること。 <p>（履修科目の登録の上限49単位（年間））</p>								1学年の学期区分			2期					
								1学期の授業期間			15週					
								1時限の授業の標準時間			90分					

教育課程等の概要

(恐竜学部恐竜・地質学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)教員		
専門基礎科目	植物生態学	2前	○	2			○			1								
	地球年代学	2後	○	2			○			2							オムニバス	
	科学英語	2前	○	2			○			2	1						オムニバス	
	進化生物学	2前	○	2			○			2	1						オムニバス	
	地球化学序論	2前	○	2			○			3	1	1					オムニバス	
	古生物学 I (脊椎動物)	2前	○	2			○			1	2					3	オムニバス	
	日本列島形成史	2前	○	2			○			2							オムニバス	
	地質調査法実習 I	2前	○	2					○	2	1						共同、標準外(一部)、※講義	
	地質図学演習	2前	○	2					○	2	1						オムニバス	
	地球科学フィールド実習 II	2前	○	2					○	2	1						共同、標準外	
	古生物学実習 I	2前	○	2					○	1	2	1					オムニバス・共同、標準外	
	地球科学基礎実験	2前	○	1					○	2	1						オムニバス	
	古生物学実験	2後	○	2					○	2							オムニバス・共同(一部)	
	デジタル古生物学概論	2後	○	2				○		2	1						オムニバス・共同(一部)	
	デジタル古生物学研究法実習	2後	○	2					○	2	1						オムニバス・共同(一部)	
	地球環境変動学	2後	○	2				○		1								
	地球化学	2後	○	2				○			1		1		1		オムニバス	
	海洋底地球科学	2後	○	2				○		1								
	地球科学フィールド研究	3前	○	4					○	10	5							
	卒業演習 I	4前	○	2					○	12	5							
	卒業演習 II	4後	○	2					○	12	5							
	卒業研究	4通	○	8					○	12	5							
小計(22科目)				51					12	5				3		4		
専門教育科目	恐竜・古生物コース必修																	
	古生物地理学	3前					○			2							オムニバス	
	古生物データサイエンス学	3前					○			2				1			オムニバス	
	古生物多様性学	3前					○			1								
	古生物学実習 II	3前								2							オムニバス・共同(一部)	
	古生物学 II (微古生物)	3後					○			2				1			オムニバス	
	古生物学課題演習	3後						○		6	3			2				
小計(6科目)				12					7	3			2					
専門教育科目	地質・古環境コース必修																	
	地質調査法実習 II	3前							○	1	2			1			オムニバス・共同、標準外(一部)、※講義	
	地球化学実験	3前							○	1	1			1			オムニバス・共同	
	海洋地球科学実習	3前							○	3				1			オムニバス・共同(一部)、標準外	
	災害・防災学 I	3後					○									2	オムニバス・共同(一部)	
	災害・防災学 II	4前					○									1		
	地質学課題演習	3後						○		6	2			1				
小計(6科目)				12					6	3			2			3		
専門応用科目	両コース選択必修科目																	
	岩石・鉱物学	2前					○										1	標準外
	恐竜発掘実習	3後							○	1	1						共同、標準外	
	地球物理学	2後					○									1	標準外	
	恐竜学特論	2後					○			1	1					3	オムニバス、標準外	
	ジオパーク学	2前					○									2	オムニバス、標準外	
	コンピュータグラフィック概論	3前					○			1	2			1			オムニバス・共同(一部)、標準外、※演習	
	古植物学	3後					○			1	1					2	オムニバス	
	古生物学 III (無脊椎動物)	3後					○			2				1			オムニバス、標準外	
	応用地質学	3後					○				1					2	オムニバス、標準外	
GIS・リモートセンシング学	3後					○									1	※演習		
小計(10科目)				20					5	5			2		15			
学芸員課程科目	博物館概論	2前					○									2	オムニバス	
	博物館経営論	2前					○									3	オムニバス	
	博物館教育論	2前					○									1	標準外	
	博物館展示論	2後					○			1	1					1	オムニバス・共同(一部)	
	博物館情報・メディア論	2後					○				1					1	オムニバス	
	博物館資料論	3前					○				1					1	オムニバス	
	博物館資料保存論	3前					○				1					1	オムニバス	
	生涯学習概論	3後					○									1	標準外	
	博物館実習	4後							○	2	2						オムニバス・共同(一部)、標準外	
小計(9科目)				19					2	3					9			
合計(53科目)				51	63				12	5			3		30			

学位又は称号	学士（理学）	学位又は学科の分野	理学関係
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等	
<p>【卒業要件・履修方法】以下に掲げる基準を満たし、合計124単位以上修得すること。</p> <p><一般教育科目>以下の基準を満たした上で、合計28単位以上修得すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必修科目：12単位修得すること。 ・選択必修科目：Ⅳ群・Ⅴ群から10単位（主に文系科目）、Ⅶ群から6単位以上（主に理系科目）修得すること。 <p><専門教育科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門基礎科目：63単位修得すること。 ・専門応用科目： <ul style="list-style-type: none"> ▶ 恐竜・古生物コースの場合、恐竜・古生物コース必修科目12単位および両コース選択必修科目12単位を含めた合計24単位以上修得すること。 ▶ 地質・古環境コースの場合、地質・古環境コース必修科目12単位および両コース選択必修科目12単位を含めた合計24単位以上修得すること。 <p><一般教育科目、専門教育科目を問わず></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 恐竜・古生物コースの場合、9単位以上修得すること。 ▶ 地質・古環境コースの場合、9単位以上修得すること。 <p>（履修科目の登録の上限49単位（年間））</p>		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	15週
		1 時限の授業の標準時間	90分

教育課程等の概要

(恐竜学部恐竜・地質学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
I 英語	英語A	1前		2			○							4	
	英語B	1前		2			○							5	
	英語C	1後		2			○							4	
	英語D	1後		2			○							5	
	小計(4科目)	—	—	8			—							5	
II 情報	ICTリテラシー	1前・後		2			○							3	
	データサイエンス基礎	1前・後		2			○							3	
	情報科学	1後		2			○							2	
	小計(3科目)	—	—	4	2		—							4	
I キャリア	キャリア形成論	1前		2			○							1	
	小計(1科目)	—	—	2			—							1	
II 英語	英語発展IA	1前		2			○							5	
	英語発展IB	1後		2			○							5	
	英語発展IIA	1前		2			○							5	
	英語発展IIB	1後		2			○							5	
	英語発展IIIA	1前		2			○							5	
	英語発展IIIB	1後		2			○							5	
	英語発展IVA	1前		2			○							5	
	英語発展IVB	1後		2			○							5	
	英語発展VA	1前		2			○							5	
	英語発展VB	1後		2			○							5	
	英語発展VIA	1前		2			○							5	
	英語発展VIB	1後		2			○							5	
小計(12科目)	—	—	24			—							5		
III 情報	データサイエンス応用	1後		2			○							1	
	プログラミング基礎	1前		2			○							1	
	プログラミング応用	1後		2			○							1	
	メディア情報リテラシー	1後		2			○							1	
	情報処理演習(AI)	1後		2			○							1	
	情報処理演習(CG)	1前		2			○							1	
	情報処理演習(Web開発)	1前		2			○							1	
	情報活用プロジェクト演習	1前		2			○							1	
	情報技術者(国家試験I)	1前		2			○							1	
	情報技術者(国家試験II)	1後		2			○							1	
	情報技術者(民間資格)	1後		2			○							1	
小計(11科目)	—	—	22			—							3		
IV 人文科学	哲学	1前・後		2			○							1	
	倫理学	1前・後		2			○							1	
	西洋思想	1前・後		2			○							1	
	東洋思想	1前・後		2			○							1	
	東洋史	1前・後		2			○							1	
	東洋の世界	1前・後		2			○							1	
	宗教学	1前		2			○							1	
	西洋史	1前・後		2			○							1	
	神話学	1前・後		2			○							1	
	歴史学	1前・後		2			○							1	
	言語学	1後		2			○							1	
	心理学	1前・後		2			○							1	
	臨床心理学概論	1後		2			○							1	
	社会学	1前・後		2			○							1	
	ジェンダー論	1前・後		2			○							1	
	現代家族論	1前・後		2			○							1	
	地理学	1後		2			○							1	
	地誌学	1前		2			○							1	
	言語文化(中国)A	1前		2			○							1	
	言語文化(中国)B	1後		2			○							1	
言語文化(韓国朝鮮)A	1前		2			○							1		
言語文化(韓国朝鮮)B	1後		2			○							1		
東アジアの文化と社会	1後		2			○							1		

一般教育科目

教育課程等の概要

(恐竜学部恐竜・地質学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)教員
	小計(23科目)	—	—		46			—							12	
V 社会科学	政治学	1後			2			○							1	隔年
	経済学	1前			2			○							1	
	経営学	1前			2			○							1	
	法学	1前・後			2			○							1	
	日本国憲法	1前・後			2			○							1	
	国際社会と法	1前・後			2			○							1	
	現代人権論	1後			2			○							1	
小計(7科目)	—	—		14			—							4		
VI 健康科学	体育実技Ⅰ	1前・後			1										1	標準外
	体育実技Ⅱ	1前・後			1										1	
	体育実技Ⅲ	1前			1										1	
	スポーツ科学	1前			2			○							1	
運動処方論	1後			2			○							1		
小計(5科目)	—	—		7			—							1		
VII 自然科学	解析学	1後			2			○							1	オムニバス オムニバス
	代数学	1前			2			○							1	
	統計学基礎	1後			2			○							1	
	数学基礎	1前・後			2			○							1	
	物理学Ⅰ	1前			2			○							1	
	物理学Ⅱ	1後			2			○							1	
	脊椎動物の進化	1前			2			○			1	1				
	地球史入門	1前			2			○			1	1				
	地球環境学概論	1後			2			○			2					
	バイオサイエンス基礎	1後			2			○							1	
小計(10科目)	—	—		20			—			3	1			3		
VIII 地域	福井を学ぶ	1前			2			○							1	オムニバス
	海と暮らし	1後			2			○							1	
	恐竜学	1前			2			○			1	1				
	暮らしを支える生物資源	1前			2			○							1	
	水産増養殖学概論	1前			2			○							1	
小計(5科目)	—	—		10			—			1	1			4		
IX 第2外国語	中国語A	1前			4			○							1	
	中国語B	1後			4			○							1	
	中国語C	1前			2			○							1	
	中国語D	1後			2			○							1	
	韓国朝鮮語A	1前			4			○							1	
	韓国朝鮮語B	1後			4			○							1	
小計(6科目)	—	—		20			—							2		
X 導入教育	導入ゼミナール	1前			2			○							6	
	教養ゼミナール	1後			2			○							6	
小計(2科目)	—	—		4			—							6		
教職課程の設置により開設する科目	教育原理	1・2・3後			2			○							1	標準外 標準外 オムニバス、標準外(一部) 標準外 共同 ※演習 オムニバス・共同(一部)、※演習 オムニバス・共同(一部)、※演習
	教育史	1・2・3・4後			2			○							1	
	教師論	1・2・3前			2			○							1	
	教育制度論	1・2・3・4前			2			○							1	
	教育社会学	1・2・3・4前			2			○							1	
	教育心理学	1・2・3前			2			○							1	
	発達心理学	1・2・3・4後			2			○							1	
	特別支援教育	1・2・3・4後			2			○							1	
	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法	1・2・3・4前			2			○							1	
	教育方法論(情報通信技術の活用含む)	1・2・3・4前			2			○							1	
	生徒・進路指導論	1・2・3・4後			2			○							3	
	教育相談	1・2・3・4後			2			○							1	
	教育実習	4前			3										1	
	教職実践演習	4後			2				○						2	
	道徳教育の理論と実践	1・2・3後			2			○							1	
	理科教育法Ⅰ	1・2・3前			2			○							2	
	理科教育法Ⅱ	1・2・3・4後			2			○							2	
学校インターンシップA	1前			1										1		
学校インターンシップB	1後			1										1		
化学Ⅰ	1前			2			○							1		

教育課程等の概要

教育課程等の概要																
(恐竜学部恐竜・地質学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)教員
	生物学 I	1前				2	○								1	
	小計 (21科目)	—	—			41		—							14	
専門教育科目	地球科学フィールド実習 I	1前	○	2					○	2	2					共同、標準外、※講義 オムニバス オムニバス オムニバス・共同 (一部) オムニバス
	生物学序論	1前	○	2				○		2						
	地学概論	1前	○	2				○		1	1					
	古生物学概論	1後	○	2				○		2						
	地層学	1後	○	2				○		2						
	海洋生物学	1後	○	2				○		1						
	小計 (6科目)	—	—	12				—		8	3					
合計 (116科目)		—	—	24	171	41		—		12	3				36	
学位又は称号		学士 (理学)			学位又は学科の分野				理学関係							
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等						
<p>【卒業要件・履修方法】以下に掲げる基準を満たし、合計124単位以上修得すること。 <一般教育科目>以下の基準を満たした上で、合計28単位以上修得すること。 ・必修科目：12単位修得すること。 ・選択必修科目：IV群・V群から10単位（主に文系科目）、VII群から6単位以上（主に理系科目）修得すること。 <専門教育科目> ・専門基礎科目：63単位修得すること。 ・専門応用科目： ▶ 恐竜・古生物コースの場合、恐竜・古生物コース必修科目12単位および両コース選択必修科目12単位を含めた合計24単位以上修得すること。 ▶ 地質・古環境コースの場合、地質・古環境コース必修科目12単位および両コース選択必修科目12単位を含めた合計24単位以上修得すること。 <一般教育科目、専門教育科目を問わず> ▶ 恐竜・古生物コースの場合、9単位以上修得すること。 ▶ 地質・古環境コースの場合、9単位以上修得すること。</p> (履修科目の登録の上限49単位(年間))										1 学年の学期区分		2期				
										1 学期の授業期間		15週				
										1 時限の授業の標準時間		90分				

授 業 科 目 の 概 要				
(恐竜学部恐竜・地質学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
I 英語	英語A		高校までに学んだ基本的な文法事項を確認し、重要な語句表現を習得することで、英語力の基礎を固める。断片的になりがちな文法と語彙の知識を体系的に身につけられるように、授業担当者間で学習内容を精選するとともに、授業では解説と演習をバランスよく組み合わせる。既習事項の復習に終わるのではなく、大学での主体的かつ自律的な学習を通して、あらゆる英語運用能力の向上につなげる。	
	英語B		学科または学部別クラスにおいて、英語Aで学ぶ文法事項や語彙表現を実際に英語で運用、発信できるようになることを目指す。文法と語彙を使うことを目的とした本授業は、英語Aと並行して同学期（同一週）に開講されるため、理解・記憶が鮮明なうちに実際に使って表現する機会となる。これにより、文法と語彙の知識の定着を図るだけでなく、機械的な暗記学習や受験英語的な発想から脱却させる。	
	英語C		学科または学部別クラスにおいて、英語の読解力をつけることを目指す。前期に習得する文法知識と語彙力を駆使して正確に読むための実践の場でもある。用いる英文のテーマは、学部や専門に関わらない一般的なものを扱い、英文の長さ・難易度はクラスごとに調整される。また、英語独特の論理や議論のしかたについても学び、英文を深く理解する視点も養う。	
	英語D		学科別のクラスにおいて、専門分野に応じた英文を用い、おもに読解力・聴解力を鍛え、総合的な英語運用能力を高める。専門的な内容でも一般読者向けに書かれた英文など、専門家でなくても読んだり聞いたりできる英文から始め、より専門的な英文へと段階的に進めていく。これによって、専門分野特有の表現に無理なく慣れ親しませ、また英語を通して、当該分野への興味関心をより一層高める。	
II 情報	ICTリテラシー		大学での学修において、情報システムやネットワークを使いこなせるように、次の項目について演習形式で学習する。 (1) パソコンの管理と操作方法 (2) レポートや論文・発表資料の作成など学術的な目的での各種アプリケーションソフトやクラウドサービスの利活用 (3) 情報倫理や情報セキュリティ等 また、大学入学時までに修得すべき内容については、事前学習としてオンデマンド教材を用いて学習する。	
	データサイエンス基礎		データを扱うために必要なExcelまたはスプレッドシート等の基本操作について学ぶ。また、データを適切に読み解き、説明するために、データの種類（質的データと量的データ）、グラフによるデータの可視化手法、データの分布や代表値、バラつき、相関等からデータの特徴を把握する記述統計学の基礎について演習形式で学習する。	
	情報科学		情報社会を生きる上で必要な次の知識と思考を講義形式で学習する。 (1) 情報社会で起きている変化 (2) 情報倫理、情報を扱ううえでの留意事項、情報セキュリティ (3) 情報をクリティカルに読み解く能力（メディアリテラシー） (4) コンピュータのハードウェア・ソフトウェア・ネットワークの仕組みと機能 (5) 社会におけるデータ・AIの利活用、留意事項	
I キャリア	キャリア形成論		本授業では、職業や産業、労働の世界に関する基礎的事項を理解し、各種ワークへの取り組みによって自己理解を深め、得られた気づきを文章で表現することを目指す。これらを通じて、学生生活の充実とキャリアデザインの関連を確認し、自身の目指すキャリアデザインがどのようなものか、その実現には何が必要であるのかを理解する。	
	英語発展 I A		学術的な文章の構造、内容を理解し、論文執筆や発表などに向けて、研究活動に対応できる英語力をつける。幅広く学術的な英語に触れることで日常表現との違いを理解し、学術的な文脈での適切な表現方法を習得する。英語特有の言い回し、思考法、修辞に慣れ親しみ、日本語との違いを把握した上で、より英語らしく表現できるようにする。	

II 英語	英語発展 I B		学術的な文章の構造、内容を理解し、論文執筆や発表などに向けて、研究活動に対応できる英語力をつける。自らの専門と関連づけながら、分野ごとに英語がどのように使われる傾向があるのかを実例に基づいて理解する。その上で、論証の仕方や説得力のある表現方法を学び、自らの論文・レポート、発表に効果的に取り入れる練習をする。	
	英語発展 II A		海外語学研修や留学と関連づけながら総合的に英語運用能力を高める。研修・留学先で必要となるトピックや英語表現について、とくに、読む・聞くを通じて、実践的な観点から英語学習に取り組む。英語運用能力の向上に加えて、海外での新たな環境に柔軟に適應できるよう、日本と世界の文化・習慣の違いについても学ぶ。	
	英語発展 II B		海外語学研修や留学と関連づけながら総合的に英語運用能力を高める。研修・留学先で想定される様々な状況で必要となる英語表現を学び、話される内容を聞きとり自分でも表現できるよう、アウトプットにフォーカスした実践練習をおこなう。英語運用能力の向上に加えて、異なる文化を背景に持つ相手とのコミュニケーションが少しでも円滑になるよう異文化理解についての基礎も学ぶ。	
	英語発展 III A		TOEIC、TOEFL、英検といった英語資格試験に対応できる力をつける。各種試験に対応した問題や過去問題等を用いて、どの試験に挑戦するにしても基本となる語彙・文法、リーディング、リスニング、スピーキングの能力を総合的に習得する。英検であれば準1級合格、TOEICであれば730以上の取得を目標値にするなど各自で目標設定が可能である。	
	英語発展 III B		TOEIC、TOEFL、英検といった英語資格試験に対応できる力をつける。卒業後の進路が進学でも就職でも、英語力の客観的な指標としてハイスコアの取得および合格を目指す。授業では、試験ごとの特徴を踏まえて各種対策をおこなう。英検であれば準1級合格、TOEICであれば730以上の取得を目標値にするなど各自で目標設定が可能である。	
	英語発展 IV A		文学作品を主な題材として英語力を高め、作品に描かれる社会的・文化的背景の理解を深める。日英語の翻訳を用いて両言語を緻密に往還しながら、英語の知識と理解を深めると同時に日本語との違いや自国文化を再発見することを目指す。そして様々な国と時代の作品を通して、多様な価値観と世界観を学び異文化理解につなげる。	
	英語発展 IV B		映画を主な題材として英語力を高め、映画に描かれる社会的・文化的背景の理解を深める。日英語の字幕を用いて、リスニングやリーディング力を鍛えるとともに、両言語の言語的な違い、文化的な違いについて考える機会を提供する。そして様々な国と時代の映画を通して、多様な価値観と世界観を学び異文化理解につなげる。	
	英語発展 V A		テレビ、新聞など各種メディア、オンライン上のニュースや記事などを通して、社会をより深く知るための時事的な英語について学ぶ。その時々々の社会情勢を反映する語彙や表現を学習しながら、国内外の情勢にも敏感になる。また書かれた英語だけでなく、実際に報道される動画や音声、インタビューなども取り上げ、英語に幅広く慣れ親しむ。	
	英語発展 V B		テレビ、新聞など各種メディア、オンライン上のニュースや記事などを通して、社会でよりよく生きるためのヒントを英語で学ぶ。実社会において対人関係を円滑にする英語表現や方法などを学び、英語圏だけでなく、世界各地で使われている様々な英語にも触れることで、グローバル化社会における英語の役割を再認識する。	
	英語発展 VI A		英語でスピーチやプレゼンテーションなどを行うための基礎を習得し、英語を用いたコミュニケーション力をのばすことを目指す。自分の思いや意見を、英語でより効果的に相手に伝達するための方法論を学ぶとともに、中身のあるコミュニケーションとなるよう、さまざまなトピックについても知識と理解を深める。	
英語発展 VI B		英語でスピーチやプレゼンテーションなどを行うための基礎を習得し、英語を用いたコミュニケーション力をのばすことを目指す。英語圏だけでなく自国の言語・文化にも目を向け、双方向的な異文化理解・交流の機会を提供する。また必要に応じて、学外での体験学習の機会として地域の国際交流、情報発信に貢献する。		

III 情報	データサイエンス応用		表計算ソフトもしくは統計処理ソフトを使い、実践的な統計解析を演習する。推測統計学の理論を現実問題に応用する際に必要な知識と技法をパソコンを使って習得する。いろいろな問題について、統計的推定・検定の考え方に慣れてもらうことがねらいである。主な内容は、平均値に関する推定・検定（t-テスト）、分散に関する推定・検定（F-テスト）、分割表に関する検定（カイ2乗テスト）、相関に関する検定などである。	
	プログラミング基礎		アルゴリズムの表現方法、簡単なアルゴリズムをコンピュータで処理させるために必要なプログラミングの基本（データの種類、演算子、条件分岐、反復、関数等）について学習する。プログラミング言語は、時代に応じたものを使用するが、当面は初心者でも修得しやすいPythonを利用して行う予定である。	
	プログラミング応用		プログラミング言語Pythonの応用として、さまざまなデータの解析・可視化、Webスクレイピングによるデータの収集、機械学習による分析について、演習や課題を通して学習する。さらに応用としてデータサイエンティストになるため必要となる実践的なやり方を理解することを目標とする。	
	メディア情報リテラシー		テレビや新聞、Webサイト、SNS等各種メディアから発信されるメッセージを読み解く能力であるメディアリテラシーについて学習する。加えて、フェイクニュース等の情報を適切に判断し、自らもソーシャルメディアを介して主体的に情報を発信していく能力を身に付ける。インターネット上の情報を収集・分析・評価する能力である情報リテラシー、ITを活用する能力であるデジタルリテラシー等、メディアリテラシーを取り巻く周辺知識も扱う。	
	情報処理演習（AI）		AI（人工知能）の応用分野、AI倫理、機械学習（教師あり学習、教師なし学習、強化学習）、自然言語処理や画像認識、ニューラルネットワークの原理、認識技術の活用例、AIの学習と推論・評価等について、演習を取り入れながら学習する。	
	情報処理演習（CG）		3DCGの基本的なモデリング、テキストチャリング、レンダリング、CGアニメーションを学習する。短編CGアニメーションを作成する演習・課題を通して3DCG技術の理解を目標とする。	
	情報処理演習（Web開発）		JavaScriptによるプログラミングの基本を学び、Web構築をするためのより高度なプログラミング技法を学ぶための基礎づくりを図る。また、簡単なホームページやWebアプリケーションを作成することによって、プログラミングの可能性を理解することを目標とする。	
	情報活用プロジェクト演習		アイデアを形成し、発展させるための具体的な方法や技術を学ぶことを目的とし、クリエイティブな思考の促進と、実際の問題解決にアイデアを適用する能力の向上を目指す。アイデアを具体的な形にするプロトタイピングの技法を学習。フィードバックを受け取り、さらなるアイデアの改善に活用する。	
	情報技術者（国家試験Ⅰ）		情報処理推進機構（IPA）が実施する国家試験「ITパスポート」に準拠し、ITを利活用する全ての社会人に求められる共通の知識を身に付ける。基礎科目「情報科学」で学習したAI（人工知能）や情報セキュリティ、ネットワークに関する知識を補強しつつ、新たに経営戦略やプロジェクトマネジメントなどの実践的手法について学習する。	
	情報技術者（国家試験Ⅱ）		情報処理推進機構（IPA）が実施する国家試験「情報セキュリティマネジメント」に準拠し、ITを安全に利活用するための基礎知識・技能を身に付ける。基礎科目「情報科学」および、自由科目「情報技術者（国家試験Ⅰ）」で学習した内容を補強しつつ、情報セキュリティ管理・対策、関連法規、ネットワーク、システム監査、経営管理について学習する。	
情報技術者（民間試験）		情報の各種演習科目で身につけた知識・技能を発展し、卒業後に実際の社会で活かせるように、情報処理やプログラミング、クリエイター等の民間資格の取得を支援する。対象とする資格は、その時々々の社会のニーズを踏まえて決定する。		

哲学		西洋哲学の古典的テキストを手がかりに、学生がそれぞれ持ちあわせている人生観・世界観を批判的に受け取り直し、それを表現へともたらす機会を提供する。そのためにまず、テーマと表現スタイルの両面で特色のある古代ギリシアから現代までの哲学者たちの論著を、各回1点ずつ紹介・概説する。これによって参加者が西洋哲学史の全体像を大まかに把握した上で、それぞれ過去の哲学者の論著のいずれかに想を得た自己表現を試みるよう、学期末の課題を設定・提示する。	
倫理学		社会の一員として誰もが直面しうる倫理的諸問題について、学生がそれぞれ自らの考えを言語化し、かつ批判的に受け取り直す機会を提供する。そのために、規範倫理学の代表的理論である義務論（カント）・功利主義（ベンサム）・徳倫理学（アリストテレス）の導入から始め、それを踏まえて応用倫理学の各領域（生命倫理学、環境倫理学、ビジネス倫理学ほか）の具体的な問題へと展開させる。この一連のプロセスを通じて、参加者が自身にとって最も切実な倫理的課題について論証的なレポートを書けるよう、各回の課題を設定・提示する。	
西洋思想		「自由」という西洋思想の根幹をなす概念（のひとつ）について歴史・制度・人間観に即した理解をえるために、古典的リベラルアーツ（＝自由人の学芸）の理念とカリキュラムの概説を行う。具体的には、まず古典古代および中世の諸家（プラトン、キケロ、マルティヤヌス・カペラ、ボエティウス等）による議論を確認し、次にいわゆる自由七科の各科（文法、論理学、修辞学、算術、幾何学、天文学、音楽）の代表的テキストを読み進め、最後に中世の専門学部（医学、法学、神学）の教育内容を瞥見する。	
東洋思想		日本を含む東アジア文化圏に少なからぬ影響を及ぼした中国文化の一つ、中国思想の変遷を対象として概説を行う。いくつかの大テーマごとに古代からの思想史的展開を主眼とした解説を行う。テーマが変わるごとに、他テーマとの関わりが明らかとなるため、中国思想史の大きな流れが把握できるような構成となっている。これにより、現代日本を生きる自らの思考についてその淵源を知り、客観的視点からの自省的思考を促す。	
東洋史		中国を中心とした漢字文化圏における政治・社会・経済・文化の変遷を相互連関とからめて理解することを目標として、歴史という視点から解説を加え理解を深める。主たる対象地域は中国及び台湾を想定しているが、日本を含むその他の周辺諸国も視野に入れる。対象とする時代としては、中国の場合は古代から現代に至る全体を概観的に扱うが、個別トピック的には唐代以前に重点を置く。台湾の場合はオランダ支配が始まった17世紀から現代を対象とする。	
東洋の世界		中国・台湾を中心とした漢字文化圏におけるさまざまな文化関連のテーマを設け、現代の東アジア文化圏への理解を深める。これにより、現代日本の若者が日常無意識に属する文化とは異なる視点を獲得し、幅広い視野による豊かな発想の養成を目指す。取り扱う具体的なテーマとしては、食文化、言語と文字、宗教、芸術、武術、現代大衆文化などが挙げられる。いずれの場合も、教回にわたる大テーマを掲げた上で、細かなトピックに分けて解説を加え、時には実践も織り交ぜる。	
宗教学		この授業で主に考察するのは、いくつかの宗教（特に一神教）において信仰の対象となっている神についてである。信仰の対象となる神は、通常、この現実世界の原因とみなされている。しかし、非宗教的な議論を行う哲学や形而上学においても、神が現実世界の原因とみなされているのは同様である。では、宗教的な文脈における「神」と非宗教的な文脈における「神」とでは何が違うのか。また、原因であること以外に共通点はあるのか。そうした相違点と共通点についての考察を糸口にして、この授業では、「世界の原因としての神」、「信仰の対象としての神」、「宗教とニヒリズム」などのテーマを取り上げ、それらのテーマに関する問題を、文学・歴史・哲学・倫理など様々な観点から考察していく。	
西洋史		ヨーロッパの歴史を古代から現代まで概観する講義である。現代社会とのつながりに重点をおき、具体的に取り上げる地域やトピックは時事問題（Brexitやドイツの政権交代など）を考慮して設定している。受講生がヨーロッパについて理解を深めるだけでなく、現代の社会問題を歴史的背景を踏まえて考察できるようになることを目標としている。	
神話学		北欧神話を事例として神話・伝説とそれを語りつぐ社会とがどのような関係にあるのかを考察する講義である。とくに歴史的視点から神話・伝説やその受容の歴史を分析し、近現代のサブカルチャーにおける神話の利用も取り上げ、現代の社会や異文化への理解を深めることも目標としている。	
歴史学		西洋世界を題材にして、人間が過去を探求する試みがどのように歴史学へと発展したかを考える講義である。また「歴史的事実」を確定する方法がどのように変わってきたのかを追うことで、現代とは異なる社会形態・価値観・行動原理への理解も深める。課題では史料読解の実践もおこなう。	

IV
人文科学

言語学		世界諸言語のデータを使いながら、言語学の代表的な概念・理論・分析を紹介する。前半は言語の様々な側面に注目し、後半は言語学と他分野との関連を探ることによって、言語の多面的で複合的な性質を明らかにする。これらを通して、身近な言語事象への関心を高め、言語学の概念と方法論を基に、母語や外国語を客観的・多角的に理解する視点を養う。	
心理学		心理学の諸領域(知覚、記憶、学習、動機づけ、パーソナリティ、カウンセリング等)について、代表的なトピックスを取り上げて概説する。適宜実習も行う。人間のこころの働きである心理を、心理が表にあらわれた行動を通して考える。様々な場面で見られる人間の行動を観察し、その結果得られた行動の仕組みや法則性を明らかにすることによって、人間のこころの働きを理解したい。	
臨床心理学概論		臨床心理学の理論や心理療法について講義するとともに、カウンセリングやコミュニケーションの演習・実習を行う。臨床心理学の入門科目であるため、講義・演習・実習では基本的に初歩的なトピックスを扱う。授業目標は以下の通りである。①心の問題について、心理学的な観点から理解することができる。②カウンセリングやコミュニケーションの技法を体験的に学び、日常生活に応用することができる。③臨床心理学の理論や技法を手がかりにして、自己と他者の心、および、自己と他者との関わり方について、考察することができる。	
社会学		社会学の思考法を学び、自らが生きている社会の仕組みを知り、自らが置かれている状況について、常識にとらわれずに、広い視野で柔軟に捉えられるようになることを目指す。生まれ、学び、暮らし、働くといったライフステージに関わる様々な問題(少子化、子育て支援、子どもの貧困、教育格差、フードシステムのグローバル化、食・農とコミュニティ、日本型雇用と長時間労働、正規雇用と非正規雇用の処遇格差等)を取り上げ、その背景にある社会構造的な要因について解説し、社会学的な視点から考察する。	
ジェンダー論		家庭・学校・職場等におけるジェンダーに関わる問題について理解を深めることを目指す。学校での隠れたカリキュラム、LGBTの子どもたちが学校で直面する困難、性別による大学・大学院への進学率や学科選択の違い、家庭での家事・育児・介護の男女間での分担、介護職への低い社会的評価、職場での女性管理職の少なさ、男女間の賃金格差、家庭責任を担う者の職場での働きにくさ等の問題を取り上げ、その背景にある性別秩序について解説する。またドメスティック・バイオレンス、性暴力、拒食症・過食症等の問題について、これらの問題が、今日の性別秩序のあり方と関わって、どのように生じているのか考察する。	
現代家族論		現代日本の家族について、歴史的な変化や、今日における課題、その背景について理解することを目指す。前半は、大正期の都市新中間層における近代家族の成立、戦前から戦後への家族の変化、高度経済成長期の安定した家族について説明し、その後の経済の低成長期、ゼロ成長期を経て、現代日本の家族が、歴史的にどのような変化を遂げてきたのか解説する。そして、その変化の背景にある社会構造的な要因について考察する。また現代日本の家族の変化を、欧米諸国の家族の大きな変化の流れのなかに位置づけてとらえる。後半は、世帯類型の多様化が進むなかで、これまで主に家族が担ってきた子育てや高齢者介護において、今日、どのような問題が生じているのか解説し、多様な家族を包摂するために必要な取組について考察する。	
地理学		地理学は自然や社会を「空間」という視点から扱う、幅広く柔軟性の高い学問である。本科目は、地質や気候などの自然や資源、人間の生業や文化などが、空間という視点からどのように関係づけ、整理・分析され、傾向や特徴を見出すことが出来るのかを学ぶ。授業は講義だけでなく、巡検(フィールドワーク)、ワークショップ、ディスカッション、工作などを取り入れ、能動的な理解を促す。	
地誌学		グローバル化が進む現代だからこそなお、日本や世界の中の地域に焦点を当て、地域性や地域の特徴について考える地誌学的視野は必要とされる。この授業では世界と日本のいくつかの地域を取り上げ、基礎的知識を確認し、受講者が世界の多様性を理解した上で、現代社会の政治や経済、文化や社会に関する様々な問題を発見し、それらに取り組んでいくにあたり、地誌学的視野をもって考えていけるようになることを目標とする。	
言語文化(中国)A		中国語には様々な方言がある、中国で普及している標準語はいつから使うようになったのかを学習し、中国小説不朽名作「三国志」と愛情もの語り「紅樓夢」を解説していく。また、中国の文化、現代中国人たちの生活などを通じて総合的に中国を理解する。資料と映像を通して分かりやすく説明する。	
言語文化(中国)B		この授業は中国の行政区分(直轄市、省、市)、教育(小・中・高校・大学)、及び漢民族と少数民族の文化や風習の違い、中国の民族音楽(二胡)、中国のお茶、近年盛んになっている中国観光、東洋医学の理論、様々な方面から中国を紹介する。写真や映画などを通して、分かりやすく説明する。	

	言語文化（韓国朝鮮）A		韓国文化の特徴を写真やビデオなどを使って分かりやすく説明する。また、学習者の積極的な参与を促すために、一つずつ項目を決めて個人発表をする。授業で扱う主な項目は次のとおりである。韓国の文化象徴、韓国の衣食住、音楽、舞踊、美術、陶磁器、韓国事情、観光地紹介、伝統遊び	
	言語文化（韓国朝鮮）B		韓国文化の特徴を写真やビデオなどを使って分かりやすく説明する。また、学習者の積極的な参与を促すために、一つずつ項目を決めて個人発表をする。授業で扱う主な項目は次のとおりである。日本内韓国朝鮮文化、昔話、儒教の影響、ユネスコ世界遺産、韓国歴史、韓国の人物、韓国人の特色	
	東アジアの文化と社会		東アジアはどんな意味であるか、東アジアの人々が毎日使うお箸、飲んでいるお茶の発祥地はどこなのか、東アジア各国は互いにどのような関わりであるのか、中国は東アジアにどのような影響があるのか、東アジアの概要、中国、日本と韓国の世界遺産、文化及び中国近代史（宋家三姉妹、ラストエンペラーの人生を通して）を学習する。写真や映像を通して分かりやすく説明する。	
V 社会科学	政治学		政治学の基礎知識の習得をとおして、政治現象とは何かを理解する。その際、国内の政治現象にとどまらず、国家間の協調や対立などグローバルな政治現象も検討事例とする。具体的には、まず、主権者として市民生活を営む上で不可欠な政治・行政の知識の習得をとおし、政治が人生全般に大きく影響する現象であることを理解する。それを踏まえた上で、日常生活に深く関わる地域・国際社会の様々な政治的課題を事例に、アクティブラーニングの手法を用いることで、課題発見・解決能力の育成を目指す。	
	経済学		経済学について、初歩的な解説から始めつつ、全体を通じてそのエッセンスが分かるような内容とする。最初に経済学的な視点と問題へのアプローチの仕方について概観する。その上で、政策的な観点から、経済学が現実を理解する上でどのように役に立っているのかを解説する。経済学が社会においてどのように活用されているのかを知り、さらに、社会に出てからもさまざまな経済に関わる書籍について、バランス良く読みこなすことが出来る力を身につけることが、本講義の目標である。	
	経営学		経営学の基礎的な知識を網羅的に学び、経営学の全体像を知ること目標とした、入門的講義である。具体的には、オムニバス形式のリレー講義となっており、それぞれの講義では、ヒト、モノ、カネ、情報という経営資源の合理的なマネジメントの手法について知識を得るとともに、地域性などを踏まえた経営学の考え方などについても触れていく。また、講義では具体例を多く盛り込むことで、初学者でも理解しやすい講義となっており、毎回の講義で課題を課すことで、知識を段階的に広めていくことが出来るようにしている。	
	法学		法についての基礎的素養を身につけること、法的思考を用いて現実社会の問題を分析する視点を獲得することを目標に、日本における法状況を概観し、様々な社会的事象について法的な観点から考察する。授業の前半では、憲法・民法・刑法の総論、司法と立法など、法についての基礎的な内容を扱う。授業の後半では、家族・ジェンダー・暴力・スポーツ・情報・リスクといった現代的なトピックを取り上げる。アクティブラーニングの手法を用いて授業を行い、受講生同士での議論を通して、法的思考の定着を図る。	
	日本国憲法		本授業では、日本国憲法の基本的な考え方、個々の条文の内容について正確な知識を身につけることを目標に、憲法の総論・統治機構・人権について満遍なく学習する。憲法の歴史・判例・学説を学ぶだけでなく、受講生が現実の憲法問題について自分の問題として考えることができるように、憲法に関連する時事的なトピックも積極的に取り上げる。また、本授業が教職課程の科目であることも踏まえ、学校や教育に関連する憲法問題を重点的に取り扱う。	
	国際社会と法		国際社会の諸問題（領土、移民・難民、ジェンダー、人種差別、障害、宗教、環境、戦争、コロナ禍、AI など）について、「法的思考」を用いて考察する。受講生が国際社会の一員として、様々な問題について主体的に考え、自分の意見を論理的・説得的に展開できるようになることを目標とし、受講生が「国際社会」を身近なものと感じることができるように、時事的なトピックや映画・音楽などのサブカルチャーも題材として積極的に取り上げる。	
	現代人権論		人権の本質について理解を深めること、現実社会の人権問題と人権を取り巻く状況を理解すること、人権問題の解決策について自分なりの意見をもつことを目標に、現代社会における種々の人権問題を多様な視点から分析し、その本質や解決策について解説する。哲学、社会福祉、心理など様々な分野の専門家をゲストスピーカーとして迎え、各専門分野の視点から人権について考察する。	隔年

VI 健康科学	体育実技 I		本科目では、大学教育が担う生涯学習機能の考えのもと、生涯スポーツとしてのスポーツ種目を実践することで、スポーツの親しみ方や楽しみ方を学び、大学卒業後も自らが豊かなスポーツライフを設計・実践できる能力を培うことを目指す。協調、協力、他者への配慮など、集団スポーツに内包される構成要素に着目し、集団における行動能力を高めることをテーマに展開する。	
	体育実技 II		本科目では、大学教育が担う生涯学習機能の考えのもと、生涯スポーツとしてのスポーツ種目を実践することで、スポーツの親しみ方や楽しみ方を学び、大学卒業後も自らが豊かなスポーツライフを設計・実践できる能力を培うことを目指す。小人数で気軽に実施でき、生涯スポーツとしても実施可能性の高い個人スポーツを取り上げ、技術的な導入・応用・発展をテーマに展開する。	
	体育実技 III		本科目では、大学教育が担う生涯学習機能の考えのもと、生涯スポーツとしてのスポーツ種目を実践することで、スポーツの親しみ方や楽しみ方を学び、大学卒業後も自らが豊かなスポーツライフを設計・実践できる能力を培うことを目指す。学外の施設を利用したコースや、季節の特徴を活かして、技能を取得することを目指したコースを展開する。	
	スポーツ科学		本科目では、運動・スポーツと健康の関わりについて、演習を交えつつ、主に講義形式により学ぶ。具体的には、個人および社会における健康問題を認識し、運動・スポーツの健康的意義を理解するとともに、生涯にわたって自主的に健康・体力づくりを実践する能力や態度を高める。また、現代社会における健康やスポーツ問題に関する情報の分析能力を身につける。	
	運動処方論		本科目では、健康・体力の維持増進、競技力向上のための安全で効果的な運動プログラム作成の基礎について、演習を交えつつ、主に講義形式により学ぶ。具体的には、健康・体力づくりやスポーツ活動におけるトレーニングについて生理的、心理的、社会的に学ぶ。また、各自で体力測定、運動プログラム作成、運動強度管理などができ、運動処方を安全で効果的に行える基礎能力を身につける。	
	解析学		大学初年次の範囲における微分・積分の基礎と応用について講義する。専門科目を学ぶ際に必要となる共通の数学的知識として必要な、数列の収束と連続関数の性質、初等関数（指数関数、対数関数、三角関数、逆三角関数）の微分、テイラー展開、関数の増減・凹凸、初等関数の積分、積分の計算（部分積分、置換積分）、積分法の応用を学習する。また、多変数関数の微分・積分（偏微分、重積分）について簡単に触れる。	
	代数学		大学初年次レベルの線形代数学について、問題演習を交えながら講義する。複数の変数をあつかう際に必要となる、ベクトル、行列、連立方程式の解法、行列式、逆行列などの線形代数学の基本事項を理解し、その計算技術を習得することを目標とする。特に、行列の基本変形、行列式の展開、行列の固有値などの計算を通じて、行列の対角化、二次形式などの問題に応用できることを目指す。	
	統計学基礎		高校までに学んだ確率・統計の復習から始めて、大学レベルで必要となる統計処理の基礎理論としての数理統計学を講義する。確率変数と確率分布、記述統計（度数分布、代表値、散布度、相関係数、回帰直線の導出）および、推測統計（平均値・分散の区間推定と各種統計的検定）の理論と技法を習得する。それらを通じて、統計データに基づく意思決定の考え方を現実問題に応用できるようになることを目指す。	
	数学基礎		高校数学から出発し、基礎的な解析学と代数学について学ぶ。実数の性質、方程式、指数・対数関数、三角関数、微分、積分、ベクトル、行列、行列式、逆行列、連立方程式などの基礎的事項を学習し、学んだ事柄を用いて問題解決ができるようにする。	
	物理学 I		力学を中心に基礎物理学の概念の習得を目指す。ニュートン力学を基礎に質点の運動を理解する。その際、慣性系や回転座標系における運動方程式について学ぶ。また応用として、万有引力の法則、物体の振動、剛体の運動についても学習する。	

VII 自然科学	物理学Ⅱ		電磁気学を主に基礎物理学の概念の習得を目指す。クーロンの法則とガウスの法則から電場と磁場を、またアンペールの法則と電磁誘導の法則から電場と磁場の関係を学ぶ。最終的にはマクスウェル方程式を理解する。またマクスウェル方程式を基にして電磁波について学習する。	
	脊椎動物の進化		約46億年前の地球誕生以降、様々な環境で多様な生命が生み出されてきた。本授業では5億年以上にわたる脊椎動物の進化の歴史を分類群ごとに概観し、生物の進化過程を理解する。 (オムニバス方式/全15回) (7 河部 壮一郎/8回) 陸上の古脊椎動物や古環境について (15 今井 拓哉/7回) 初期脊椎動物から恐竜、鳥類について	オムニバス方式
	地球史入門		宇宙の誕生から現在の地球にいたるまでの形成過程を時系列に沿って学び、地球の成り立ちを理解する。宇宙形成論、惑星形成論を基礎にして、宇宙の誕生から、太陽系の誕生、惑星の形成を学び、太陽系の諸惑星と比較して、地球がどのようにして現在のような環境をもつ惑星になったのかを理解する。また、大気や海洋の変遷も学び、地球の気候変動に関しても理解する。	
	地球環境学概論		地球環境の諸問題は、現代を生きる上で不可避であり、地球環境の理解は私たちの様々な活動と直結する問題である。本授業では、現在の地球環境問題を理解するために、地球環境の地質学的変遷やシステムの概要を学ぶ。それに基づいて、現代の地球環境問題の実態と原因を体系的に理解することを目指す。 (オムニバス方式/全15回) (① 西 弘嗣/8回) アルベドやミランコビッチサイクル、炭素循環等について (② 安藤 寿男/7回) 時代ごとの環境変動や地球温暖化について	オムニバス方式
	バイオサイエンス基礎		バイオサイエンスは、化学的および生物学的手法を用いて、生命の構成要素や仕組みを解明し、普遍的な原理を追求することで、生命現象を理解する学問である。バイオサイエンス研究の成果は、バイオテクノロジーの技術革新につながり、医薬品の開発、食糧の増産、品質の向上など、食、生命、環境の分野において重要な影響を与える。この授業では、最先端のバイオサイエンス研究やバイオテクノロジーに焦点を当て、それらが我々の日常生活にどのように関わるかについて講義を行う。	
VIII 地域	福井を学ぶ		福井県立大学で学び始めた新入生が、福井という地域の特性について幅広く学ぶとともに、福井が有する多様な資源を世界的な視点のなかに位置づけ、地域において本学が果たす役割を理解する。福井の歴史・自然・社会・経済・文化の特性について各分野の専門家をゲストスピーカーとして招き、大学が地域に根ざしている役割について考えることを目指す。	
	海と暮らし		海洋生物資源、それらを取りまく環境、水産資源の管理、水産資源生物の増養殖、水産資源の利用および貯蔵、水産流通経済に関する広範な内容について福井県の現状なども踏まえながら様々なトピックスを紹介する。	
	恐竜学		本授業では、メディア等に登場する恐竜像と科学的根拠に基づく最新の恐竜像と比較することで、実際に生きていた生物としての恐竜の姿を学習する。さらに、古生物学の基礎知識や恐竜進化に関わる地質時代のイベントを紹介し、古生物学全般への興味を深める。 (オムニバス方式/全15回) (9 柴田 正輝/7回) ガイドンス、恐竜の分類等について (16 服部 創紀/8回) 獣脚類等について	オムニバス方式
	暮らしを支える生物資源		微生物から動植物までさまざまな生物資源を対象とした、世界をリードする最先端研究や福井の活性化を目指した地域貢献研究まで幅広い研究を紹介する。また、作物品種改良や次世代栽培技術、食品製造・流通、持続型環境保全の理論など、農(食・農業・環境・文化・生活)全般に関する研究を紹介する。各分野の専門家をゲストスピーカーとして招き、生物資源学が地域に果たす役割について考えることを目指す。	

			水産増養殖を俯瞰的に理解するために必要な種苗生産学、養魚育成学、魚病学、育種学、発生工学、水産海洋情報学、水産経済学の各分野について、基本的知識と最近のトピックおよび時事的内容について講義する。水産増養殖が社会においてどのように貢献できるかを理解する。	
IX 第2 外国語	中国語A		初めて学ぶ言葉の場合、発音のマスターはとても重要である。理屈以前に耳と口で覚えなければならない。そのため、中国語では「ピンイン」と呼ばれるローマ字発音記号の習得を徹底する。また、文法学習はもちろんのこと、日本とはやや異なる「簡体字」と呼ばれる漢字の学習にも重点が置かれる。	
	中国語B		中国語Aを発展させて、さらに文法知識と語彙の拡充および徹底した発音練習を行う。	
	中国語C		文法知識と新しい語彙の拡充をはかり、会話練習、さらなる作文を行う。具体的に一人一人の発音を確認し、提出する作文を添削する。	
	中国語D		文法知識と新しい語彙の拡充をはかり、会話練習、作文を行う。提出した作文を添削し、発音練習して、教室で発表する。話す、聞く、書くことなどを全面的に学習していく。	
	韓国朝鮮語A		イラスト・ベースの教材を用いて学修する。会話形式の学習を通して「読む、書く、話す、聴く」を総合的に志向する。また、テキストに完全対応したワークブックを十分に生かす授業を行う。講義で修得を目指す内容は以下のとおりである。 1. 基礎的な韓国語を読み、書き、聞き取ることができる 2. 決まり文句としての挨拶や簡単な質問ができ、またそういった質問に答えることができる。 3. 自分自身や家族の名前、独特な好き嫌いなどの私的な話題、日課や予定、食べ物などの身近なことについて伝え合うことができる。	
	韓国朝鮮語B		イラスト・ベースの教材を用いて学修する。会話形式の学習を通して「読む、書く、話す、聴く」を総合的に志向する。また、テキストに完全対応したワークブックを十分に生かす授業を行う。講義で修得を目指す内容は以下のとおりである。 1. 決まり文句を用いて様々な場面で挨拶ができ事実を伝え合うことができる。 2. 比較的使用頻度の高い単語や文型を用いて文を読んだり聞いたりすることができる。 3. レストランでの注文や簡単な買い物をすることができる。	
X 導入教育	導入ゼミナール		初めて大学で勉強を始める学生のために1年生前期に行う少人数のゼミ形式の授業。新入学生が大学生活で不安を抱かないように、まず単位取得の方法および成績評価、時間割の作り方、学業面・メンタル面・生活面での相談先の周知、仲間作りの端緒となるアイスブレイク等など、勉学の前提となり健全な勉学環境の基盤になる部分についての説明や指導を行う。その後、大学での知的活動に必要なさまざまな手法、「読む」「書く」「伝える」「議論する」「調べる」などについて、教員と近い距離で、実践的な訓練を行う。	
	教養ゼミナール		前期の「導入ゼミナール」を発展させた1年次後期に開講するゼミ形式の授業。大学での知的活動に必要なさまざまな手法、「読む」「書く」「伝える」「議論する」「調べる」などについて、深く広く学び考える場を提供する。2年次以降の専門教育での少人数ゼミへの接続も意識しつつ、一般教育科目への関心をより深めることを目指す。	
	教育原理		現代の教育・学校教育を取りまく多様な事象やシステムを教育思想史の観点から概説することで、教育の理念や歴史に関する理解を深めるとともに、現代的な教育課題を理論的・客観的に考察していく。また、教育課程の編成に関する具体的事例の考察を通して、学校において編成される教育課程の意義や編成の方法、とりわけカリキュラム・マネジメントの意義と方法について理解を深める。	

教育史		教育や学校に関する思想史的理解を深めるため、主に近代以降の教育と学校の変遷について講義及びグループ・ディスカッションを行う。具体的には、「近代教育の誕生」、「学校教育と新教育運動」、「近代教育批判」という3つの大きなテーマに分けて全15回の授業を行い、現代の学校教育が抱える諸課題を近代教育という大きな歴史的流れのなかに位置づけながら考察していく。	
教師論		社会の変化とともに教職の重要性はますます高まりつつある。そこで本授業では、教職の意義や教師の役割・職務内容等について幅広く理解し、教職への意欲を高めるとともにその基礎的な資質能力を身につけられるよう、現在の教師や学校を取り巻く複雑な状況を講義及びグループディスカッションを通じて解きほぐしていく。	
教育制度論		学校における子どもの学びや教師の教育実践を支えると同時に制約する機能をもつ教育制度について、①まずは現行の教育制度がどのような内容（及び法的根拠）であるかを知り、②なぜそのような制度が出来上がったのかを歴史的に理解する。さらに、③他国の教育制度にも視野を広げ、教育制度の在り方を多角的に検討したり、④時代とともに変化する教育課題の実態を理解した上で現行の教育制度を批判的に検討したりすることで、創造的に教育制度に向き合うことのできる力を身につけてもらいたい。また学校経営の観点から、学校の自主性・自立性がますます求められる中で学校に求められる役割、またそれを支援する地方教育行政の在り方について具体的に考えてもらいたい。	
教育社会学		教育社会学とは、その名の通り、教育に関わる事象について、社会学の視点と方法を用いて探求するものである。本授業では、制度としての学校、学校の社会的位置づけ、組織としての学校など、主に学校教育に関わる事柄について、教育社会学の知見を用い、様々な角度からアプローチしていく。様々な教育事象の「常識」を問うことによって、自分自身の意見を相対化する方法も学ぶと同時に、現代社会の中で学校がもつ機能や、社会が学校に与える影響などについても学ぶ。	
教育心理学		学習、記憶、動機づけ、心身の発達等に関する基礎的な知識や考え方を講義する。同時に、これらの知識や考え方を応用した指導法や発達段階を踏まえた教育のあり方について講義する。これらを通して、児童生徒の学習や発達を支えるための視点と方法について理解を深められるようにする。	
発達心理学		基本的な人間の認知機能を整理して理解した上で、それらが各発達段階においてどのように変化を示すのか、そしてそれらを説明する理論はどのようなものかを講義する。また、折に触れてワークシートを提示し、特に未だ有力な説明がなされていない発達上の現象について、自ら説明を試みることも課す。	
特別支援教育		特別支援教育の理念、発達障害を中心とした特別支援教育の対象となる幼児児童生徒の特性および特性に応じた対応法について概説し、それを行う学内の体制、学外機関との連携の実際等について事例を挙げながら講述する。適宜小グループによる事例検討も行う。	
特別活動及び総合的な探究の時間の指導法		現実社会とその問題から主題を構築し長期にわたり探究を進める総合的な学習の時間と、民主的で自治的な能力の形成を図ることを目的とする特別活動への理解を深め、相互の連動性と螺旋性及び教科学習との重層性を学ぶ。この学びを通して、総合的な学習の時間・特別活動・教科学習を統合する教師のカリキュラム・マネジメント能力の素地を構築する。	
教育方法論（情報通信技術の活用含む）		本授業では教師の職務の内、「授業」に焦点を当てる。授業を「観る」「読む」「デザインする」という一連の実践的な行為を通して、授業実践に関する技術や思考を深める。理論的根拠に基づいて、教育方法に関する議論を行っていく。	

生徒・進路指導論	<p>授業計画の前半は生徒指導、後半は進路指導(キャリア教育)について講義する。どちらにおいても、まず目的や原理について講義し、次に指導の進め方について講義する、という順序を進める。指導に関する授業では、受講生が自ら主体的に考えることができるように、演習やグループ・ディスカッションを取り入れる。なお、外部講師の来校の関係で、一部集中講義での実施となる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (28 黒田 祐二/7回) 生徒指導の目的及び指導を進めて行く上で必要な知識と方法について講義やグループ・ディスカッションを通して理解を深める。 (62 塚田 孝子/4回) 生徒指導における具体的指導法について講義や演習を通して理解を深める。 (63 山田 智之/4回) 進路指導の目的及び指導を進めて行く上で必要な知識と方法について講義やグループ・ディスカッションを通して理解を深める。</p>	オムニバス方式
教育相談	<p>学校における教育相談の意義と理論、教育相談を進めるために必要な基本的な知識と技法、教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性について、講義・演習・実習を通して学ぶ。</p>	
教育実習	<p>高等学校において、観察・参加・実習という方法により学校教育の実際に関わることを通じて、教師としての愛情と使命感を深め、自らの資質・能力や適性を考えるときにもその課題を自覚する。また、学校教育を実際に体験することによりその総合的理解を深めることができるだけでなく、教育実践ならびに教育実践研究の具体的・基礎的な能力と態度を身につける。</p>	
教職実践演習	<p>教科指導、学級運営、学校内外の関係者との人間関係、生徒理解・指導など、教師としての力量や資質が問われる場を複数取り上げ、それぞれの場面で演習や実習を行うことで、教師としての力量と資質を総合的に確認する。また、教育実習のふり返りや4年間の学習の記録である「履修カルテ」を基に、教師になるための課題をみつけ、課題の克服を意識しながら学習を進めていく。</p>	共同
道徳教育の理論と実践	<p>「特別の教科 道徳」が現在のような教科として成立するまでに至る歴史的経過を戦前から戦後、現在に至るまでの社会的変化に対応させて学んでいく。さらに道徳教育の展開と道徳科の指導については具体的に模範授業を見せたり模擬授業をしたり、近隣の学校に出かけて授業見学することも計画したい。また、この授業の中では道徳的指導力を育成するため、新聞記事の中から道徳的価値を見つけ、発表する時間を設ける。</p>	講義 26時間 演習 4時間
理科教育法Ⅰ	<p>高等学校の理科授業に必要な知識・技能・評価等について概説した後、チームで授業づくりを行い、実践力を養う。この講義を通じて、高等学校理科とは、授業構成力、授業評価等に関する理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (59 浅原 雅弘/7回) 物理、化学領域の理科授業に必要な知識・技能・評価等について概説した後、チームで授業づくりを行い、実践力を養う。この講義を通じて、高等学校理科とは、授業構成力、授業評価等に関する理解を深める。 (60 山田 吉英/7回) 生物、地学領域の理科授業に必要な知識・技能・評価等について概説した後、チームで授業づくりを行い、実践力を養う。この講義を通じて、高等学校理科とは、授業構成力、授業評価等に関する理解を深める。 (59 浅原 雅弘・60 山田 吉英/1回) (共同) オリエンテーション</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部) 講義 16時間 演習 14時間
理科教育法Ⅱ	<p>理科教育法Ⅰに引き続き、理科教育の理論と実践について、多面的に理解を深める。理科教育法ⅠおよびⅡで学んできたことを統合し、主に、基礎を付した科目の中から1回分の学習指導案(細案)を1人で作成し、模擬授業を行う。これらの自己及び相互評価を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (59 浅原 雅弘/7回) 物理、化学領域の理科授業に必要な知識・技能・評価等について概説した後、個人で授業づくりを行い、実践力を養う。この講義を通じて、高等学校理科とは、授業構成力、授業評価等に関する理解を深める。 (60 山田 吉英/7回) 生物、地学領域の理科授業に必要な知識・技能・評価等について概説した後、個人で授業づくりを行い、実践力を養う。この講義を通じて、高等学校理科とは、授業構成力、授業評価等に関する理解を深める。 (59 浅原 雅弘・60 山田 吉英/1回) (共同) オリエンテーション</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部) 講義 16時間 演習 14時間

学校インターンシップA		児童生徒への学習支援や適応支援、授業準備や事務業務の補助、部活動の補助業務、学校行事での補助業務など、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、児童生徒の実態や課題を把握したり、実習校における教育活動の特色や工夫を理解したりする。	
学校インターンシップB		児童生徒への学習支援や適応支援、授業準備や事務業務の補助、部活動の補助業務、学校行事での補助業務など、夏休み後（実習校が2学期制の場合は後期）から年度末までの期間に学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、児童生徒の実態や課題を把握したり、学級運営や学校運営に関する教育活動の特色や工夫を理解したりする。	
化学 I		物質の構成要素である原子・分子の構造について、高校化学の再学習から出発し、順を追って講義を進める。本学部の特に実験講義で重要な物質量の概念、濃度計算の習熟にも重きを置く。	
生物学 I		生物学は地球上のすべての生き物に関する科学であり、その知識は生物そのものを理解するためだけでなく、生物をあつかう多くの実用的な学問の基礎としても非常に重要である。本科目では、大学レベルの生物学を学ぶための土台となる生体物質、細胞の構造・機能、代謝および遺伝子などについて広く学習するだけでなく、理解を深めるために講義内容に関連した最新のトピックスも紹介する。	
地球科学フィールド実習 I	○	地球科学の諸現象を理解するためには、屋外における調査や観察が重要である。本実習では、福井県内にある特異な地形、地質の観察を通して、その成立過程を学ぶことで、地球科学分野における野外調査の能力を身につける。また、福井県内の豊かな自然がどのように成立したのかを、野外における露頭の観察を通じて理解する。	主要授業科目 共同 講義 10時間 実験・実習 50時間
生物学序論	○	本授業では、生命の起源から進化、細胞の構造、遺伝学、生態学、そして人間の健康と医療まで、生物学の幅広い領域について学ぶ。本授業を通して生物学の基本原則を理解し科学的な視点を養う。 (オムニバス方式/全15回) (11 大石 善隆/7回) 細胞構造、遺伝学、進化論、生態学等 (20 法木 左近/8回) ヒトの解剖学、生理学、病気、医療等について	主要授業科目 オムニバス方式
地学概論	○	地学は、太陽系から地球までの自然の営みを学び、地球の歴史を紐解き、生物の進化まで考える学問分野である。本授業では、前半で主として固体地球科学、岩石学、地質・古生物学、大気・海洋学に関する基礎を学ぶ。後半では、我々の生活に直結する地球表層環境の形成とその過程や変化、気候変動や自然災害と人間生活を取り上げる。これらは地質調査の基礎となるとともに、日本のような自然災害の多い立地の本質的な理解をもたらす。 (オムニバス方式/全15回) (3 神谷 隆宏/8回) 主に固体地球物理、岩石、地質・古生物学について (12 中村 英人/7回) 主に大気、海洋、気候変動、自然災害、人間の活動と地球環境について	主要授業科目 オムニバス方式
古生物学概論	○	古生物学では多様な対象と多岐にわたる手法に関する知識を必要とする。本授業では、その基礎的な知識全般を具体的な実例を用いて学び、古生物学が地球科学の研究に果たした役割を学ぶ。化石を通して地球と生命の歴史を探究するために、古生物学の基礎となる項目に関して解説する。また、地球生命史の復元における古生物研究の役割も紹介する。 (オムニバス方式/全15回) (5 高田 裕行・② 安藤 寿男/1回) (共同) 古生物学の対象範囲について (5 高田 裕行/6回) 古生物学の歴史と発展、化石等について (② 安藤 寿男/8回) タフオノミーや古生物分類学等について	主要授業科目 オムニバス方式・ 共同 (一部)

地層学	○	<p>環境や生物の変遷などの地球の歴史は、地層に記録されている。本授業では、地層はどのようにして形成されるのか、地層からどのようなことを読み取ることができるかを学ぶ。また、地層や堆積物の性質や形成過程、堆積環境と堆積相との関係などについて学び、地球の歴史を読み取るための手法や知識を体系的に学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) ① 西 弘嗣/6回 地質年代、古環境の復元等について ② 安藤 寿男/9回 地層の形成や堆積構造等について</p>	<p>主要授業科目 オムニバス方式</p>
海洋生物学	○	<p>過去の地球環境を理解し、その環境に生息していた化石生物を理解するためには、現在の海洋環境や海洋生物の情報は必要不可欠である。本授業では、現在の海洋環境がどのように成り立っているのか、その成立過程を含めて解説し、海洋環境に応じてどのような生物が生息することで、多様性が維持されているのかを学ぶ。また、海洋環境に対応した様々な生態系について学び、地球-海洋-生物圏の相互作用を理解する。さらに、これらの現生生物の群集構成や生態の情報を、どのように古生物学の研究に応用するかも学ぶ。</p>	<p>主要授業科目</p>
植物生態学	○	<p>本授業では植物生態学の基本的事項を概説し、個体から群落、地球スケールにたる幅広い視点から、植物生態に関する理解を深める。また、植物の生態と他分野とのつながりについても解説することで、多角的な視点からも植物生態学を捉えられるようにする。</p>	<p>主要授業科目</p>
地球年代学	○	<p>地球の歴史を理解するためには、どの時代に、どのようなイベントが発生したかを理解する必要がある。本授業では地球と生命の進化史を読み解くうえで、産出する示準化石の種類や生層序、古地磁気、安定同位体などの相対年代決定、放射性同位体に基づく絶対年代決定等について学び、地球変遷史の理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) 2 村山 雅史/9回 絶対年代法について 4 山田 努/6回 相対年代法について</p>	<p>主要授業科目 オムニバス方式</p>
科学英語	○	<p>科学英語論文の理解には、専門的な語句や表現に慣れること、文法に則って文章を解析することが必要である。本授業では、科学英語論文を読解するための地質学と古生物学を中心とした基本的な専門用語を学び、英語科学論文等の読解力の向上を図る。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) 6 土屋 正史/5回 英語論文の読解について 8 藤田 和彦/6回 英訳の実例紹介等について 15 今井 拓哉/4回 小論文の作成について</p>	<p>主要授業科目 オムニバス方式</p>
進化生物学	○	<p>生物の進化過程を解き明かすことは、古生物学における命題の一つである。試料の産出や保存状態のため限界があるものの、古生物の研究にも現在の生物を使った最新の遺伝子研究の知見が取り入れられ、進化過程が論じられている。本授業は、自然選択や中立説、種分化のメカニズムなど進化生物学の基礎を学ぶとともに、真核生物の初期進化や発生学、生態学の知見を加えた進化生物学の知識を理解し、古生物学への応用例を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 全15回) 6 土屋 正史/5回 進化生物学の基礎、真核生物の初期進化、単細胞真核生物の分類・生態・生活史・進化について 3 神谷 隆宏/5回 節足動物等多細胞真核生物の分類・生態・発生・進化について 15 今井 拓哉/5回 絶滅爬虫類や鳥類等の分類・生態・発生・進化について</p>	<p>主要授業科目 オムニバス方式</p>

地球化学序論	○	<p>地球誕生から現在に至る地球科学の諸現象を理解するためには、地球を構成する元素と化学反応、同位体の起源や特徴、および大気圏・水圏・岩石圏中の物質循環の理解が不可欠である。本授業では、地球史における環境に関する化学的な進化や、地球を構成する岩石や鉱物、生物、水などを化学的側面から概観し、元素の物質循環について学び、地球変遷史の理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (2 村山 雅史/4回) 同位体と地球化学分野の応用やまとめ等について (4 山田 努/4回) 原子や元素、酸・塩基等について (12中村 英人/3回) 有機化合物や命名法等について (18前田 歩/2回) 海水の組成や海洋の沈降粒子等について (6土屋 正史/2回) 海洋の物質循環や化学勾配等について</p>	主要授業科目 オムニバス方式
古生物学 I (脊椎動物)	○	<p>絶滅した動物を研究するためには、動物の進化や形態的特徴(ボディプラン)の変遷などを把握していくことは必須である。本授業では、化石種の基本的な理解のために、動物の起源や進化、分類について、古生物学的な視点を通して学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (7 河部 壮一郎/3回) 鳥類や人類について (15今井 拓哉/3回) 原始的脊椎動物や進化発生生物学について (16服部 創紀/3回) 解剖学、爬虫類について (73 宮田和周/2回) 哺乳類について (75 箇田 哲平/2回) 分岐学と爬虫類について (71 一島 啓人/2回) 大量絶滅と多様性について</p>	主要授業科目 オムニバス方式
日本列島形成史	○	<p>日本列島は、プレートテクトニクスでは島弧-海溝系に位置するとされ、地震や火山などの現象がなぜ起こるのか、説明されている。本授業では、最初に地殻表層の地形と構造をもたらしているプレートテクトニクスに関して概観し、日本列島がどのような地質学的な位置にあるかを把握し、島弧-海溝系としての特徴を学ぶ。さらに、数億年に及ぶ日本列島の地質構造発達史を概説する。また、現在の福井の地質がどのように形成されたのかあわせて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (① 西 弘嗣/7回) 地質年代ごとの日本列島の特徴等について (② 安藤 寿男/8回) 現在の日本列島の構造等について</p>	主要授業科目 オムニバス方式
地質調査法実習 I	○	<p>野外での岩石・地層などの調査は地質学の基本である。本実習では、地質調査で用いられるクリノメーターの使い方、地質柱状図の書き方、地質ルートマップの作り方などについて学び、実際に野外露頭での地層観察と記載を行うことによって、基礎的な地質調査手法を身につける。</p>	主要授業科目 共同 講義 8時間 実習 52時間
地質図学演習	○	<p>本演習では、地質調査に携わるために必要な基礎的知識・技術である地形図の読み方、地質図から層序や地質構造を読み取る方法、さらには地質図・地質断面図の書き方についての演習を行う。また、褶曲・断層や古流向などの面構造・線構造の解析に用いられるステレオ投影法の基礎を学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (4 山田 努/5回) 地形図と地質図、ステレオ投影法について (14 林 圭一/6回) 地質断面図の作図、ルートマップからの地質図・地質柱状図の作図について (② 安藤 寿男/4回) 露出の幅と地層の厚さや地層境界線の作図等について</p>	主要授業科目 オムニバス方式

地球科学フィールド実習Ⅱ	○	地球科学の諸現象を理解するためには、屋外における調査や露頭の観察が重要である。本実習では、福井県内で実施した地球科学フィールド実習Ⅰを踏まえて実施する。対象地域について、地球科学的に重要な露頭、産出化石などを野外で観察し、現地での説明や解説資料、文献を参照しながら、多様な地質現象とそれらの関係について学び、地球科学分野における野外実習を体験する。	主要授業科目 共同
古生物学実習Ⅰ	○	古生物学研究は、研究対象となる化石を採集した時点から始まる。しかし、標本を研究するためには、事前準備が必要となる。最初に化石を岩石の中から取り出すクリーニング作業は最も大切な工程の一つで、次いでレプリカ製作も研究・展示を行うために欠くことができない技術である。本実習では、古生物研究の基礎となるクリーニングおよびレプリカ製作の作業を実践的に行う。 (オムニバス方式/全30回) (9 柴田 正輝・15 今井 拓哉・19 大山 望・16 服部 創紀/2回) (共同) イントロダクションやガイダンス (15 今井 拓哉・19 大山 望/20回) (共同) 化石クリーニング作業、レプリカ製作 (9 柴田 正輝・16 服部 創紀/8回) (共同) 大型化石のレプリカ製作	主要授業科目 オムニバス方式・共同
地球科学基礎実験	○	地球科学における基礎的な実験・実習を通して、地学における基礎知識の習得や観察方法や考え方を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (2 村山 雅史/10回) 岩石薄片や堆積物コア観察や分析法について (12 中村 英人/3回) 岩石や鉱物の観察について (5 高田 裕行/2回) 化石の観察について	主要授業科目 オムニバス方式
古生物学実験	○	本実験は、室内で各地質時代の代表的な化石や現生の標本を観察する。また、海洋コアの観察・記載、微化石の抽出・観察・解析を行う。さらに、野外の露頭で地層の堆積構造や岩相、含まれる化石の産状を観察して、露頭から化石標本も採集する。それらを実験室でクリーニング・同定を行い、化石から得られる情報を考察する。 (オムニバス方式/全30回) (3 神谷 隆宏/9回) 古生代・中生代示準化石や野外調査指導、大型化石の処理と解析について (8 藤田 和彦/9回) 新生代示準化石や微化石の処理と解析について (3 神谷 隆宏・8 藤田 和彦/12回) (共同) 野外資料採集やその解析、発表について	主要授業科目 オムニバス方式・共同 (一部)
デジタル古生物学概論	○	化石のデジタル情報を取得すると、学術面での利用に限らず、様々な場での活用に繋がり、汎用性の高い情報となる。本授業では、化石のデジタルデータの取得、制作方法の理論と応用例について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (7 河部 壮一郎・13 鹿納 晴尚・20 法木 左近/1回) (共同) ガイダンス (13 鹿納 晴尚・20 法木 左近/1回) (共同) 三次元画像処理について (7 河部 壮一郎/3回) CTスキャナを用いた化石研究について (13 鹿納 晴尚/8回) 測定機器の利用や課題等について (20 法木 左近/2回) CTスキャナの概要・構成について	主要授業科目 オムニバス方式・共同 (一部)

デジタル古生物学研究法実習	○	<p>デジタル古生物学概論で理論を学び、本実習では実際に様々な手法を使い、デジタルデータの取得と制作を行う。さらに、これらのデータをアーカイブとして整備・公開する手法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) (7 河部 壮一郎・13 鹿納 晴尚・20 法木 左近/2回) (共同) ガイダンス (7 河部 壮一郎/4回) CTスキャナデータ処理について (13 鹿納 晴尚/20回) デジタルアーカイブの作成等について (20 法木 左近/4回) 大型標本のスキャナ等について</p>	<p>主要授業科目 オムニバス方式・共同 (一部)</p>
地球環境変動学	○	<p>今後の地球温暖化を考えたとき、これからの地球がどのように変化するのかを学ぶことは必要である。本授業は、地球史における地球環境の変動のパターンと要因を知ることで、地球環境を制御するシステムを理解する。あわせて、現在の温暖化や海洋酸性化の現状についても学ぶ。</p>	<p>主要授業科目</p>
地球化学	○	<p>地球誕生から現在に至る地球科学の諸現象を理解するためには、地球を構成する元素とその同位体の起源や特徴、変遷の理解が不可欠である。本授業では、地球史の初期に生じた化学進化や、地球を構成する岩石や鉱物および生物等を化学的側面から概観し、各主要元素の物質循環とその過程を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (12 中村 英人/8回) 主に、地球や生物を構成する元素や物質の成り立ち、生物地球化学的循環と有機地球化学について (18 前田 歩/5回) 主に、水圏・生物圏における地球化学・同位体化学について (78 静谷 あてな/2回) 主に、有機地球化学の生命進化や古環境復元への応用について</p>	<p>主要授業科目 オムニバス方式</p>
海洋底地球科学	○	<p>本授業では、太陽系の惑星で唯一存在する地球の海洋に関して、海の役割と成り立ち、海水循環と物質循環、海底の動きや地球内部動態、海底堆積物に刻まれた地球環境の歴史と生命の進化に関して学ぶ。</p>	<p>主要授業科目</p>
地球科学フィールド研究	○	<p>本授業は、地質調査のための実践的な技術の習得を目的として、県内のフィールドを対象に野外地質調査を行い、調査の結果をレポートにして作成し、プレゼンテーションを行う。</p>	<p>主要授業科目</p>
卒業演習 I	○	<p>卒業研究を行うために、その研究課題に関連する基礎知識を学び、研究に必要な学術論文を調査し、その内容を紹介するプレゼンテーションを演習形式で行う。また、研究課題として開始した調査・実験等の結果の中間報告を行う。他の学生の発表時は、内容を理解すると共に質疑応答に参加する。</p>	<p>主要授業科目</p>
卒業演習 II	○	<p>卒業研究を進展させるために、その研究課題に関連する動向を学び、研究成果を深めるのに必要な学術論文を調査し、その内容を紹介するプレゼンテーションを演習形式で行う。また、研究課題として進めてきた調査・実験等の結果もプレゼンテーションで報告し、研究の完成を目指す。他の学生の発表時は、内容を理解すると共に質疑応答に参加する。</p>	<p>主要授業科目</p>
卒業研究	○	<p>卒業研究の課題に関して、調査・実験を計画・実施し、研究成果に関してプレゼンテーションを行い、卒業論文としてまとめる。また、他の学生の発表時は、内容を理解すると共に質疑応答に参加する。</p>	<p>主要授業科目</p>

恐竜・古生物コース 必修科目	古生物地理学	<p>本授業では、陸上および海洋の生物地理区がどのように成立していったかを学ぶ。また、大陸移動を含めた古生物地理学も同時に学習し、様々な古生物の時空間分布の変遷を取り上げ、それぞれの進化学的な意義などについて概説をする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (① 西 弘嗣/9回) 古生物地理学の概要(地理区分等)や浮遊性生物の分布や特徴について (5 高田 裕行/6回) 底生生物の分布や特徴について</p>	オムニバス方式
	古生物データサイエンス学	<p>化石種を含め生物に関する実験や調査で得られたデータから、学術的に意味のある結論を導き出すには、統計学的手法を用いなければならない。本授業では統計学的手法の基礎的な理論や処理方法などを学ぶ。また、現生あるいは化石試料を実際に計測して得られたデータから、形態に関する様々な統計解析の手法も実際の作業を通して学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (8 藤田 和彦/5回) 統計・検定の理論と基礎、特に一変量データの解析方法や表現方法について (5 高田 裕行/5回) 多変量データの解析の基礎と研究例について (③ 木下 峻一/5回) 古生物の形態解析の基礎と最新の研究例について</p>	オムニバス方式
	古生物多様性学	<p>化石の多様性に関する情報は、生息環境や進化史、様々な地球環境変動の理解に重要である。本授業では、主に海生生物の事例を通して、生物多様性がどのような環境要因に規制され、どのように地球環境史の理解につながるかを学ぶ。さらに、多様性を記述する代表的な手法についても学ぶ。</p>	
	古生物学実習Ⅱ	<p>本実習では、関連科目で学んだ知識を理解するために、現生の動物の解剖を行い、その機能を確認する。脊椎動物の体を構成する主要な器官の肉眼的構造を学び、代表的な解剖学用語を習得する。また、動物間の解剖学的な違い、器官が担う機能と構造の対応関係を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) (7 河部 壮一郎・20 法木 左近/14回) (共同) ガイダンス・骨学実習について (7 河部 壮一郎/8回) 恐竜の骨格スケッチ等について (20 法木 左近/8回) 肉眼解剖実習等について</p>	オムニバス方式・ 共同(一部)
	古生物学Ⅱ(微古生物)	<p>古生物には微化石とよばれる顕微鏡サイズの化石があり、過去の地球の環境や気候を復元するのに使われている。本授業では、代表的な微化石の分類群について学び、それらが年代決定・古環境の研究に果たす役割を理解する。また、恐竜時代から現在までの事例を取り上げ、海洋の大きな変動も紹介する。さらに、環境変化に鋭敏である浅海地域の環境の変化を理解するため、サンゴ礁を取り上げ、そこに棲む生物やその変遷にも焦点をあて概説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (5 高田 裕行/5回) 底生微化石の生活史・古環境復元の研究事例について (① 西 弘嗣/5回) 浮遊性微化石にもとづく年代決定と海洋環境の復元について (③ 木下 峻一/5回) サンゴ礁生物の変遷について</p>	オムニバス方式
古生物学課題演習	<p>恐竜・古生物コースにおいて、ゼミ形式で行う演習科目である。古生物学分野における特定の課題に関する学術論文を幾つか読解し、その内容を簡潔にまとめてプレゼンテーションを行い、内容に関して討論を行う。また、その内容を要約して小論文にまとめる。</p>		

地質・古環境コース必修科目	地質調査法実習Ⅱ	<p>野外での岩石・地層などの調査は地質学の基本である。本実習では、「地質調査法実習Ⅰ」で習得した技術や授業で学んだ知識を基礎として、高度な地質調査の知識と方法を学習・習得する。広い範囲での野外調査を行い、取得した地質情報を図面（ルートマップ、柱状図、地質図、地質断面図など）として視覚化するとともに簡単な地史を作成する。また、ドローンおよび三次元（3D）測量機を用いた露頭調査に関する手法の基礎を学ぶ。さらに、これらを簡単な報告書としてまとめる。</p> <p>（オムニバス方式／全30回） (4 山田 努・14 林 圭一／17回) (共同) 傾斜した地層の観察と対比、断層・褶曲 (4 山田 努・13 鹿納 晴尚・19 大山 望／10回) (共同) ドローン・3D測量機を用いた野外露頭調査 (4 山田 努・14 林 圭一・13 鹿納 晴尚／2回) (共同) 地質調査報告書の作成 (4 山田 努・14 林 圭一・13 鹿納 晴尚・19 大山 望／1回) (共同) ガイダンス</p>	オムニバス方式・共同 講義 6時間 実験・実習 54時間
	地球化学実験	<p>化石や岩石など天然試料に含まれるバイオマーカーや化学組成は、それらが形成されたときの環境・各種条件や現在に至るまでの過程を反映している。その形成・続成環境には水が大きく関与している。本実験では、野外調査などで採取した化石・岩石や水の化学組成やバイオマーカーを分析するための基礎的分析手法の原理を学ぶとともに、実際の分析とデータ解析を通して技術を習得する。</p> <p>（オムニバス方式／全30回） (4 山田 努・12 中村 英人・18 前田 歩／2回) (共同) 実験器具・廃液の取り扱い (4 山田 努・18 前田 歩／20回) (共同) 水・炭酸塩鉱物の無機地球化学分析と同位体比分析；XRD分析；SEM-EDS分析 (4 山田 努・12 中村 英人／8回) (共同) 有機地球化学分析とデータ解析</p>	オムニバス方式・共同
	海洋地球科学実習	<p>地層と地層に含まれる化石群がどのように形成されるかを理解するために、現在の海底堆積物に含まれるプランクトンやベントスの遺骸、風成塵や粘土鉱物、有機物含有量、溶存酸素量や pH、海水の化学的特徴などの環境情報を取得し、解析する。それらの環境情報と堆積物、海洋の生物の活動や群集組成がどのようにリンクし、地層に保存される情報とされない情報があることを学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全30回） (3 神谷 隆宏・2 村山 雅史・6 土屋 正史・18 前田 歩／18回) (共同) 調査船による堆積物・浮遊性生物の採集、成果発表会 (3 神谷 隆宏／2回) 遺骸群集の分布解析（貝形虫） (2 村山 雅史／3回) 堆積物コアの分析 (6 土屋 正史／2回) 遺骸群集の分布解析（底生有孔虫） (18 前田 歩／2回) 遺骸群集の分布解析（浮遊性有孔虫） (3 神谷 隆宏・6 土屋 正史／3回) (共同) 生体群集の分布解析や微小生物の形態観察等</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	災害・防災学Ⅰ	<p>日本列島は4つのプレートが関与する変動帯に位置しているため、火山活動や地震が頻繁に発生し、ときには津波も襲来する。本授業では特に地震災害や火山災害について、過去の災害の記録を概観して、災害が繰り返し発生してきたことを確認し、災害の原因や特徴を学ぶ。また、東日本大震災や能登半島地震など近年の災害や、北陸地方に特徴的な災害を福井県の事例を中心に紹介する。さらに、国内外で先史・歴史時代に起きた巨大災害も学習する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） (⑤ 後藤 和久／8回) ガイダンス、火山災害等について (④ 菅原 大助／6回) 地震、津波、北陸地方の災害等について (⑤ 後藤 和久・④ 菅原 大助／1回) (共同) 地質時代の巨大災害と全体のまとめ</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	災害・防災学Ⅱ	<p>日本はプレートが沈み込むプレート境界に位置しているため、地形が急峻で、地震・火山活動が活発である。さらに、中緯度の湿潤帯に位置しているため、台風・豪雨などの気象災害を受けやすい環境条件にある。本講義では、以上のような地球科学的バックグラウンドのなかでこれまでに発生してきた各種の気象災害・土砂災害について学び、具体的な防災についても考えていく。</p>	

地質学課題演習		地質・古環境コースにおいてゼミ形式で行う演習科目である。地質学分野における特定の課題に関する学術論文を幾つか読解し、その内容を簡潔にまとめてプレゼンテーションで紹介し、内容に関して討論を行う。また、その内容を要約して小論文にまとめる。	
岩石・鉱物学		地球を構成する岩石は火成岩、変成岩、堆積岩からなる。本授業では、このうち火成岩の基礎的な知識と生成理論を学ぶ。また、火成岩を構成する鉱物の基礎的な知識もあわせて学習する。	
恐竜発掘実習		恐竜化石の発掘方法や発見される化石の状態は、場所により大きく異なる。様々な発掘現場を知ることにより、多様かつ実践的なスキルを身につけるだけでなく、研究テーマの発見や新手法の提案などが期待できる。本実習では、タイ国の発掘現場にて多様な調査方法や化石の産出状況を体感するとともに、現地の研究者や学生と交流することで、多角的な研究能力および国際的な視野を養う。	共同
地球物理学		本授業では、前半部で地球物理学の分野の中の測地学、地震学、地球電磁気学、地球内部物理学などに関して学び、後半では地球磁場に焦点をあて、その基本的性質、地磁気逆転、岩石の磁化などに関して学ぶ。	
恐竜学特論		本授業は、「恐竜学」の内容を基礎とし、より発展した内容の講義を行う。先行研究を元にして、日々進展する恐竜に関する知見を掘り下げて紹介し、恐竜の生物学的側面を理解する。また、英語の文献を読解し、専門用語に慣れるとともに、オンラインによる外国人研究者の授業を行い最新の恐竜研究を学習する。 (オムニバス方式/全15回) (9 柴田 正輝/4回) 硬組織等について (16 服部 創紀/2回) 生理学や大進化・絶滅について (74 関谷 透/4回) 接触と食事等について (80 築地 祐太/4回) 軟組織や系統分類等について (65 David Varricchio/1回) 海外における恐竜研究について	オムニバス方式
ジオパーク学		ジオパーク (Geopark) は、地球科学的に価値のあるジオサイト (地形・地質遺産) を保全し、それらがもたらした自然環境や地域文化への理解を深めることで、自然と人の共生および持続可能な社会を実現することを目的としたユネスコのプログラムである。保護・保全、教育、研究、持続可能な地域振興が重要な活動となっている。本授業では、北陸にある世界・日本ジオパークに焦点を当て、その地質や地形を中心に学習し、また、海外の世界ユネスコジオパークの現状を理解し、それらがどのように日本の観光や地域に貢献できるのかを考える。 (オムニバス方式/全15回) (66 町 澄秋/14回) ジオパークについて (目的、背景、活動、地質遺産など) (64 Willailak Naksri/1回) 海外事例の紹介について	オムニバス方式

コンピュータグラフィック 概論		<p>古生物学の復元においてコンピュータ・グラフィックス (CG) の知識は必要不可欠となっている。本授業では、古生物復元の映像化に必要な CG の理論を学ぶ。恐竜や微化石など専門分野ごとの CG の活用事例も紹介し、古生物研究や展示・活用へ応用する技術も学ぶ。実際に、Web による配信技術のプログラム知識の習得、CG 映像作成、仮想現実 (VR) コンテンツ作成を行うことで古生物に関連したデジタルコンテンツの企画・制作・利用についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (13 鹿納 晴尚/3回) 3DCGの基礎およびXR技術について (7 河部 壮一郎/1回) 恐竜化石と3DCGについて (③ 木下 俊一/1回) 微化石と3DCGについて (15 今井 拓哉/2回) 3DCGの権利関係とCGの見せ方について (13 鹿納 晴尚・7 河部 壮一郎・③ 木下 俊一・15 今井 拓哉/8回) (共同) Blenderでの3DCG動画コンテンツ作成演習、UnityでのVRコンテンツ作成演習</p>	オムニバス方式・ 共同 (一部) 演習 14時間 講義 16時間
古植物学		<p>植物は陸上の主要な一次生産者として地表を緑に変え、陸上生態系と地球環境を作ってきた。本授業では、植物の分類と進化、生態、形態、他の生物や地球環境との関わりとその変遷史を学ぶ。大型化石や孢子・花粉化石の研究法から化石有機物の地球化学的解析法まで、地質試料から古植物学的情報を読み解く手法の原理と成果を概観し、地球史における陸上生態系と古気候・古環境の復元への応用事例について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (12 中村 英人/7回) 概要説明、主要な陸上植物の古環境、有機質微化石や分子化石の研究法とその成果について (11 大石 善隆/4回) 植物の分類や進化について (72 寺田 和雄/2回) 大型化石の研究法とその成果について (77 湯川 弘一/2回) 中生代・新生代の陸上生態系と古環境について</p>	オムニバス方式
古生物学Ⅲ (無脊椎動物)		<p>脊椎動物以外の軟体動物や節足動物など海洋および陸上の無脊椎動物は、地球上の生物多様性を考える上で欠くことのできない分類群である。また地質時代において重要な示準化石であるとともに、劇的な進化・絶滅を繰り返してきた。本授業ではこれらの分類群の古生物学における基礎的な知識を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (3 神谷 隆宏/4回) 概要説明と甲殻類の分類・進化・古生態について (8 藤田 和彦/4回) サンゴの分類や進化・古生態について (19 大山 望/2回) 昆虫類の分類・進化・古生態について (76 中田 健太郎/2回) 頭足類の分類・進化・古生態について (79 中山 健太郎/1回) 巻貝類の分類・進化・古生態について (81 安里 開士/2回) 二枚貝類の分類・進化・古生態について</p>	オムニバス方式
応用地質学		<p>地質学は、社会の要請に応じて実学として発展してきた側面がある。地質学の知識や技術は、建築や土木などの街づくり、地質災害への対策 (防災)、エネルギー資源、自然由来物質の環境への影響評価など、様々な側面で欠かすことのできない社会を支える基礎となっている。授業では、社会や実業の中での地質学のあり方を知るとともに、地質学の知識や技術が実際に活用されている現場を知る技術者・研究者などを講師として招き、実例を通じて地質学が実社会でどのように応用されているかを紹介する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (14 林 圭一/5回) ガイダンス、エネルギー地質、温泉・地熱資源等について (70 高野 政志/9回) 土地質や防災地質・斜面災害等について (69 山岸 鑑頌/1回) ドローンを用いた調査について</p>	オムニバス方式

学 芸 員 課 程 科 目	GIS・リモートセンシング学	地球環境や地域環境の調査、災害調査、地域計画などの分野で利用されているリモートセンシングについて基礎から応用までの概要を学習する。また、リモートセンシングデータ解析について事例を参照しながら学習する。具体的には、センシングの原理、データの入手方法、データの補正処理や解析手法を学習し、GISデータやUAV空撮画像や衛星画像を利用して理解を深める。	講義 16時間 演習 14時間
	博物館概論	博物館は時代とともに社会から求められる機能や役割が変化してきた。授業では、はじめに博物館学と国内外の博物館の歴史を学ぶ。次いで、博物館が持つ機能と役割について実例を示し関連法令と共に理解を進める。専門の異なる博物館や地域の博物館の現状について学ぶことにより、博物館が持つ役割や諸活動の意義、課題などを理解する。 (オムニバス方式/全15回) (⑧ 中川 良平/7回) 博物館の歴史や目的、機能等について (⑨ 高津 翔平/8回) 博物館の事例紹介や学芸員の役割等について	オムニバス方式
	博物館経営論	博物館の経営には、関係する財政、法令、施設・設備管理のほか、組織構築や、中長期計画の策定など様々な知識が求められる。さらに博物館は社会との関わりのなかで、他の機関・博物館や地域社会との連携が求められる。これらの事例は博物館の規模や運営主体により異なるので、授業ではそれぞれに実例を示しながら博物館の運営に関することを包括的に学ぶ。さらに、恐竜博物館の経営について実例と共にその課題について議論することで、博物館経営の実態を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (⑩ 池上 直樹/7回) 博物館の経営基盤等について (⑪ 辻野 泰之/7回) 博物館における社会連携、国内外博物館の事例紹介等について (71 一島 啓人/1回) 恐竜博物館の経営と課題について	オムニバス方式
	博物館教育論	博物館教育の理論や実践に関する基本的な知識と方法を学び、さまざまな博物館での実践事例を通じて、博物館教育や学芸員の役割について理解を深める。	
	博物館展示論	授業では、様々な資料がいかにして博物館の展示として表現されるのかを、様々な事例を通じて理解する。最初に展示の歴史を紹介し、次いで博物館の種類と展示事例、展示技術や構造などに関して基礎知識を学ぶ。また、博物館の設立や企画展、常設展のリニューアルの過程やその背景、展示に込められたメッセージ性や社会との関わりについての事例を示す。さらに、福井県立恐竜博物館の建設からリニューアルまでの事例から様々な展示手法について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (13 鹿納 晴尚/9回) 展示の歴史、博物館の種類と展示など展示全般について (9 柴田 正輝/3回) 恐竜博物館を事例とした展示の設計・展示手法などについて (83 蘇 綾/2回) 恐竜博物館の展示について (13 鹿納 晴尚・9 柴田 正輝/1回) (共同) 最終回のまとめについて	オムニバス方式・ 共同 (一部)
	博物館情報・メディア論	博物館資料の情報は、様々なメディアを使って表現される。授業では、視聴覚メディアの歴史とその理論を学び、資料の情報を伝えるための基礎知識を学ぶ。さらに、博物館資料の文書化の方法や情報通信技術 (ICT) を使った情報データベースの作成手法も学ぶ。特に、情報の表現・展示方法として最新の ICT 技術を広報する手段としてインターネットの利用や地域メディア等の活用事例を学ぶ。また、恐竜博物館における情報・メディアの活用事例について解説する。 (オムニバス方式/全15回) (13 鹿納 晴尚/14回) 博物館情報・メディア論全般について (82 千秋 利弘/1回) 恐竜博物館における情報・メディアの活用事例について	オムニバス方式

博物館資料論		<p>博物館資料は、ある目的で収集されたもので、それらを展示など様々な形で活用して初めて意味をなす。学芸員による資料の収集、調査、研究は、博物館における重要なミッションであることから、授業ではその意義について学ぶ。博物館資料について、専門分野ごとに特徴を示すとともに、収集と分類、整理方法等について実例と共にその理論を示す。さらに、恐竜博物館の資料の分類・整理方法、調査研究等について解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (13 鹿納 晴尚/13回) 博物館資料全般について (84 小泉 早千穂/2回) 恐竜博物館の資料について</p>	オムニバス方式
博物館資料保存論		<p>博物館資料を将来へ伝えるためには、資料に最適な保存条件を知ることが重要である。授業では、展示・保管環境が資料に及ぼす実例を示し、資料の保護や防災に求められる体制や設備について学ぶ。資料保存にかかわるデジタルアーカイブについては、その技術と応用について紹介する。そのほか、学芸員として求められる地域の文化財、自然史財の保存、環境保護等にかかわる知識と技術を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (13 鹿納 晴尚/14回) 博物館資料の保存全般について (82 千秋 利弘/1回) 恐竜博物館での資料保存について</p>	オムニバス方式
生涯学習概論		<p>生涯学習を理論的視点、歴史的視点、実践的視点から考察することにより、生涯学習と社会教育に関する基礎的知識と考え方について理解を深める。なお、授業内容の理解を深めるため、授業内で適宜ディスカッションをおこなうとともに、学習ポートフォリオを毎時間作成する。</p>	
博物館実習		<p>本実習は、福井県立恐竜博物館での実地体験を通じて、展示構成、収蔵標本の管理・保管・収集、研究活動、教育普及プログラムの構築など、多様な博物館業務を体験して実践的スキルを身につける。最初に、施設・展示の見学および研修から博物館の概要を理解し、発掘～資料収集に関する一連の実務実習を行う。また、普及事業の運営補助やその他の博物館行事等を実際に体験する。さらに、これらの実習を通じて展示・広報・教育普及活動などの改善点や新企画などの立案も行い、学芸員としての活動できる素養を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全45回) (9 柴田 正輝・7 河部 壮一郎・15 今井 拓哉・16 服部 創紀/3回) (共同) 発表準備や発表等について (9 柴田 正輝/9回) イントロダクション、施設整備・展示について (7 河部 壮一郎/9回) 調査研究活動について (15 今井 拓哉/9回) 野外体験や研究体験について (16 服部 創紀/9回) 資料収集、化石クリーニングについて (9 柴田 正輝・7 河部 壮一郎/3回) (共同) 展示・広報活動について (15 今井 拓哉・16 服部 創紀/3回) (共同) 教育普及事業について</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

公立大学法人福井県立大学 設置認可等に関する組織の移行表

令和 6 年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和 7 年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
福井県立大学				福井県立大学				
経済学部				経済学部				
経済学科	100	—	400	経済学科	100	—	400	
経営学科	100	—	400	経営学科	100	—	400	
生物資源学部				生物資源学部				
生物資源学科	45	—	180	<u>生物資源学科</u>	<u>50</u>	—	<u>200</u>	定員変更 (5)
創造農学科	25	5(3 年次)	110	<u>創造農学科</u>	<u>30</u>	—	<u>120</u>	定員変更 (5)
海洋生物資源学部				海洋生物資源学部				
海洋生物資源学科	50	—	200	海洋生物資源学科	50	—	200	
先端増養殖科学科	30	—	120	先端増養殖科学科	30	—	120	
看護福祉学部				看護福祉学部				
看護学科	50	—	200	看護学科	50	—	200	
社会福祉学科	30	—	120	社会福祉学科	30	—	120	
				<u>恐竜学部</u>				学部の設置 (認可申請)
				<u>恐竜・地質学科</u>	<u>30</u>		<u>120</u>	
合計	430	5	1,730	合計	<u>470</u>	—	<u>1,880</u>	

令和 6 年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和 7 年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
福井県立大学大学院				福井県立大学大学院				
経済・経営学研究科				経済・経営学研究科				
地域・国際経済 政策専攻 (M)	12	—	24	地域・国際経済 政策専攻 (M)	12	—	24	
経営学専攻 (M)	12	—	24	経営学専攻 (M)	12	—	24	
経済研究専攻 (D)	4	—	12	経済研究専攻 (D)	4	—	12	
生物資源学研究科				生物資源学研究科				
生物資源学専攻 (M)	12	—	24	生物資源学専攻 (M)	12	—	24	
生物資源学専攻 (D)	4	—	12	生物資源学専攻 (D)	4	—	12	
海洋生物 資源学専攻 (M)	12	—	24	海洋生物 資源学専攻 (M)	12	—	24	
海洋生物 資源学専攻 (D)	4	—	12	海洋生物 資源学専攻 (D)	4	—	12	
看護福祉学研究科				看護福祉学研究科				
看護学専攻 (M)	10	—	20	看護学専攻 (M)	10	—	20	
社会福祉学専攻 (M)	6	—	12	社会福祉学専攻 (M)	6	—	12	
健康生活科学研究科				健康生活科学研究科				
健康生活科学専攻 (D)	3	—	9	健康生活科学専攻 (D)	3	—	9	
合計	79	—	173	合計	79	—	173	